介護福祉士
国家資格取得に向けた

留学生指導についてのガイドライン

改訂版



令和５年３月

介養協
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

内容

はじめに 5

ガイドラインの使い方 6

Ⅰ. 国家試験の得点別に見た留学生の特徴と対応 7

1．国家試験の科目別に見た留学生の特徴 7

2．国家試験の問題分類別に見た留学生の特徴 9

（1）国家試験の問題分類 9

（2）問題分類別に見た留学生の特徴 10

3．国家試験の日本語の理解しにくいポイント別に見た留学生の特徴 11

（1）国家試験に登場する日本語で留学生が難しさを感じる点の分類 11

（2）日本語で留学生が難しさを感じる点の分類別に見た留学生の特徴 12

4．試験結果から見た留学生の特徴と対応 14

（1）試験の得点別に見た留学生の特徴 14

（2）留学生の学習習得段階に応じた養成校の対応 17

Ⅱ. 国家試験に向けて養成校に求められる対応 18

1．留学生の学習支援 18

（1）入学選抜試験での対応 18

（2）養成校での日本語指導 20

一口メモ：計画的に学習することができる学生への目配り 21

（3）国家試験対策と絡めた介護の授業 22

一口メモ：授業の満足度と理解度の違い 23

一口メモ：各養成校の国家試験対策 25

（4）介護施設・事業所と連携した留学生の指導 27

一口メモ：養成校で学んだ技術とアルバイトや実習先での技術の違い 27

（5）介護学習を行う上でのモチベーション管理 28

一口メモ：介護を魅力的に感じてもらえるような工夫 28

（6）卒後支援／卒業生との交流 28

２．留学生の学習環境の整備 29
（１）留学生が抱える生活全般の問題について 29
一口メモ：奨学金制度の活用 31
（２）生活全般についてのサポートについて 32
３．養成校での留学生指導についてのまとめ 33
一口メモ：高得点の養成校の特徴 33
Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する 34
１．国家試験で登場する日本語を理解する 34
（１）国家試験の日本語をよく見てみよう 34
（２）国家試験の日本語の何が難しいのか 35
（３）語彙が難しいのはなぜか 35
（４）文法について 35
２．介護福祉士国家試験に必要な日本語力 36
（１）介護福祉士国家試験は日本語の試験ではない 36
（２）類推力のために必要となる「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」 37
（３）読解力 37
３．介護専門学習をしながら、どう国家試験に対応できる日本語力をつけていくか 38
（１）漢字学習・漢字語彙学習 38
（２）音読の勧め 39
（３）国家試験の問題文の読み取り方 40
４．まとめ：「国家試験で使用される日本語を理解する」とは 44
巻末参照編. 令和元年度国家試験　誤回答の分析 45
１．本資料の概要 45
２．本資料の活用方法 45
（１）はじめに 45
（２）誤回答の特徴（詳細記載版） 48
巻末参照編. 留学生に関する各種参考情報（2023 年 1 月 現在） 82

はじめに

わが国においては毎年要介護者が増加し、これに伴う介護従事者の需要は令和 7 年度（2025 年度）までに約 245 万人と推計されています。またこれと同時に、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に伴い質の高い介護が求められており、優秀な介護人材の確保は喫緊の課題となっています。

これまで介護人材は、専門性が不明確でそれぞれの役割が混在している「まんじゅう型」の状態にあり、今後は、裾野を広げつつ専門性の向上や機能分化を実現する「富士山型」へと構造転換する必要があるとされています。そのために、人材の層に応じたきめ細かな方策を講じることとされており、介護の専門人材である介護福祉士には、介護業務のマネジメントや、現場でのチームリーダー等のスペシャリストとしてのキャリアを形成することが望まれています。

介護福祉士の養成については、平成 29 年（2017 年）9 月 1 日から在留資格「介護」が創設されたことにより、介護福祉士養成施設への留学生の入学者数は近年急激に増加しており、令和 2 年度の入学者数は 2,395 人となっています。

令和 2 年 3 月卒業の外国人留学生（以下、留学生という）卒業生 836 人の 97.6%が日本で介護施設等の福祉分野に就職している状況にあり、養成校で介護を専門的に学んだ者として、将来の介護業界における中核的な役割を担う介護人材として大いに期待されているところです。

しかし、介護福祉士国家試験における留学生の合格率は 39.2%（令和元年度）と大変低く、6 割以上の留学生が国家試験に合格できていない状況です。

このような中、令和 2 年度（2020 年度）に厚生労働省が補助事業として公募した「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」について、当協会の実施計画が採択され、「留学生指導についてのガイドライン」を作成することができました。また、翌令和 3 年度には「指導のポイント」を、さらに令和 4 年度には「学習ハンドブック」を作成し、その過程で得られた各種調査結果は、この「ガイドライン」にも追加修正の必要があることから、この度、「留学生指導についてのガイドライン（改訂版）」を作成いたしました。

当協会では、この改訂版を作成するにあたり、検討委員会を設置し、介護福祉士養成施設の教員へ改訂の要望に関するアンケート調査を行いました。アンケートにご協力いただいた皆様、検討委員会委員の皆様方には感謝申し上げる次第です。

留学生をはじめ外国人介護人材の質の向上が図れるよう、介護福祉士養成施設はもとより関係する方々に本ガイドラインを活用いただければまことに幸甚に存じます。

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

ガイドラインの使い方

介護福祉士資格の取得は、介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる資質を担保し、社会的な信頼と評価を高める観点から、一定の教育課程を経て受験資格を得た上で、国家試験により修得状況を確認するという、資格取得の一元化が図られています。

介護福祉士養成施設においては、社会の要請に応えるためにも、質の高い介護福祉士を養成する役割が期待されています。今回のガイドライン作成においては、わが国で介護を学ぶ留学生の国家資格取得に向け、どのように指導を進めるかに焦点を当てました。

母国での介護や看護の勉強や仕事の経験の有無や、日本語能力や漢字を知っているか、また、育った国の環境や文化など、留学生の状況は様々であり、学習指導の方法は個々の留学生によって異なります。

このガイドライン作成にあたって、①留学生に、第 32 回介護福祉士国家試験の総ふりがな付き問題、母国語による問題文を解答してもらった上で、誤答理由を調査した結果、②養成校や留学生のアンケート調査の回答内容、③当協会が実施した学力評価試験の結果、等を留学生ごとに①②③を紐づけるなどして分析し、外国人介護人材の教育に豊富な知見を持つ教員へのヒアリング等を踏まえ、検討委員会及び作業部会で検討いたしました。

ガイドラインは、留学生の状況や科目ごとの指導のポイント等、項目別に構成しています。これらの学習指導のポイント等は、留学生に限ってではなく、日本人学生にも適応できるものです。また、各養成校の取り組みなどを「一口メモ」として紹介しています。

改訂にあたっては、個別性への配慮がより必要であること、日本語教員との連携が重要であることを追記しています。また、本年度実施のアンケートで特に要望の多かった国家試験に頻出される言葉などの例を、第 33・34 回国家試験のなかからも追記しています。

本ガイドラインは、養成校向けに作成しており、養成校の運営上参考にしていただきたい内容を記載しています。この別冊として、養成校教員が留学生の指導を行う際の参考資料として、教員向けの「留学生指導についての指導のポイント」、留学生が自己学習を効率的に進めるための参考資料として、留学生向けの「留学生学習ハンドブック」を別途作成していますので、適宜参考にしていただければと思います。

留学生指導についての指導のポイント



※本協会 HP よりダウンロード可能

留学生のための学習ハンドブック



※本協会 HP よりダウンロード可能

Ⅰ．国家試験の得点別に見た留学生の特徴と対応

この章では、本協会が行った各種試験、調査の結果をもとに、国家試験における留学生の回答や正答の特性を分類別に記載しています。各養成校におかれましては、国家試験の指導を行う際の参考にしていただければと考えます。

1．国家試験の科目別に見た留学生の特徴



留学生指導のポイント

Point-1 **日本人学生のほとんどが正答する等、押さえておくべき科目（「人間の尊厳と自立」、「人間関係とコミュニケーション」、「生活支援技術」等）は、漏れなく得点できるようになるよう指導していく。**

Point-2 **留学生が苦手とする科目（「社会の理解」、「障害の理解」、「こころとからだのしくみ」、「総合問題」等）については、知識の底上げとあわせて集中的な試験問題対策を行う。**

日本人学生および留学生の複数の国家試験のデータの得点率を科目別に整理したところ、**「社会の理解」、「障害の理解」、「こころとからだのしくみ」、「総合問題」は、日本人、留学生ともに得点率が低い**ことがわかりました。全体としては日本人と留学生の得点傾向は変わりませんが、**「人間関係とコミュニケーション」、「介護過程」等は日本人学生が9割程度得点できている一方、留学生の得点率が低く**、押さえておくべき問題を落としていることがうかがえます。

図表：各試験の科目別得点率一覧（高数値が赤、低数値が青）

		R1国家試験			R2学力評価試験	
領域	科目群	日本人(※1)	留学生(※2)	留学生(※3)	日本人(※4)	留学生(※5)
人間と社会	人間の尊厳と自立	92.9%	79.0%	64.8%	89.9%	67.4%
	人間関係とコミュニケーション	88.0%	76.7%	65.3%	84.1%	52.7%
	社会の理解	51.7%	40.0%	47.7%	49.5%	30.5%
介護	介護の基本	76.2%	67.3%	55.5%	57.6%	39.6%
	コミュニケーション技術	73.5%	66.4%	53.9%	74.4%	42.3%
	生活支援技術	82.8%	65.6%	52.0%	73.9%	45.8%
	介護過程	91.0%	67.0%	54.1%	69.0%	40.2%
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	76.9%	60.9%	55.2%	53.9%	35.6%
	認知症の理解	76.8%	59.4%	49.6%	69.3%	47.4%
	障害の理解	59.4%	47.7%	44.4%	68.9%	43.6%
	こころとからだのしくみ	65.5%	49.6%	45.4%	63.4%	42.5%
医療的ケア	医療的ケア	92.4%	76.7%	62.9%	67.4%	47.8%
総合問題	総合問題	62.5%	49.9%	43.5%	49.4%	33.4%

出典：試行試験・学力評価試験等　調査結果　報告書（令和２年度　本協会作成）

※　1　R1 年度卒業日本人高校生の国家試験受験時データ（文部科学省提供）
※　2　R1 年度卒業留学生の国家試験受験時データ
※　3　R2 年度卒業予定留学生の試行試験（R2.9-10 月実施）データ
※　4　R2 年度卒業予定日本人学生の学力評価試験（R2.11 月実施）データ
※　5　R2 年度卒業予定留学生の学力評価試験（R2.11 月実施）データ

また、学力評価試験の分析結果をもとに、どの科目の問題ができていたら留学生の合計得点が高いか、どの科目の問題ができていないと低得点となるかの傾向を調べた結果、以下のような結果となりました。

図表：12 科目による留学生の学力評価試験点数高／低得点層の特徴

得点層	学力評価試験点数（125 点満点）	特徴
高得点層	**平均 87.0 点**	・「生活支援技術」等、日本人学生の得点率が高い科目の**正答率が高い** ・「こころとからだのしくみ」、「認知症の理解」等、日本人学生の得点率が低い科目においても**正答率は低くない**
中間層	**平均 57.8 点**	・「生活支援技術」等、日本人学生の得点率が高い科目の**正答率が高い** ・「こころとからだのしくみ」等、日本人学生の得点率が低い科目においては、**あまり正答率は高くない**
低得点層	**平均 32.1 点**	・「生活支援技術」等、日本人学生の得点率が高い科目の**正答率が低い** ・「こころとからだのしくみ」、「認知症の理解」等、日本人学生の得点率が低い科目においては、**正答率が低い**

出典：試行試験・学力評価試験等　調査結果　報告書（令和 2 年度　本協会作成）より本協会にて取りまとめた

これらの結果から類推されることとして、125 点満点中 80 点以上（ここで分類すると高得点層に該当）の合格ラインを獲得するためには、「生活支援技術」等の、確実に正答すべき問題を落とさないことが大前提としてあり、その上で、日本人学生、留学生ともに得点率が低い「こころとからだのしくみ」等の問題も、一定程度以上は得点できているということです。

一方、低得点層をみると、高得点・中得点層が正答している「生活支援技術」等も正答率が低く、平均点が 32.1 点と全体を通して得点ができていません。

このため、各養成校では、**日本人学生のほとんどが正答できている科目（問題）は確実に正答できるように指導する** Point-1 とともに、**留学生が不得意と思われる科目（「社会の理解」、「障害の理解」、「こころとからだのしくみ」、「総合問題」等）については知識の底上げや集中的な試験対策を行う必要** Point-2 があります。



２．国家試験の問題分類別に見た留学生の特徴



留学生指導のポイント

Point-1 **介護・医療の基本的な用語とその意味については徹底して理解を促す。**

Point-2 **実習や介護のアルバイト等留学生の実体験を各科目の学びと統合することで理解を深める。**

本協会が独自に国家試験問題の分類を行った上で、どの問題に正答していたら留学生の合計得点が高いか、逆にどの問題に正答していないと低得点となるかを調べた結果、以下のような結果となりました。

（１）国家試験の問題分類

問題分類については、以下のように分類しました。

図表：国家試験の問題分類

国家試験問題分類	具体的な問題内容
医療･介護の言葉の理解を問う問題	・ 文言の理解そのものを問う問題 ・ 文言を理解できないと回答できない問題
病気や障害などの理解を問う問題	・ 疾病の状態や障害の内容等を理解していないと回答できない問題
介護現場で起きることの理解を問う問題	・ 介護現場で一般的に起こりうる事象を理解していないと回答できない問題
介護を必要とする人についての理解	・ 高齢者や障がい者に起こりうることを理解していないと回答できない問題
介護のやり方理解を問う問題	・ 介護技術の方法を理解していないと回答できない問題
介護制度、サービスの理解を問う問題	・ 介護制度、サービスを理解していないと回答できない問題

（２）問題分類別に見た留学生の特徴

結果は以下の通りです。

図表：国家試験の問題分類による留学生の学力評価試験点数高／低得点層の特徴

得点層	学力評価試験点数（125 点満点）	特徴
高得点層	**平均 84.1 点**	・「医療･介護の言葉の理解を問う問題」の**正答率が高い** ・「介護のやり方理解を問う問題」の**正答率が高い**
低得点層	**平均 32.8 点**	・「介護のやり方理解を問う問題」の**正答率が低い**

出典：試行試験･学力評価試験等　調査結果　報告書（令和 2 年度　本協会作成）より本協会にて取りまとめた

※　分析の結果、中間得点層は存在せず、高得点層と低得点層にわかれました

これらの結果から類推されることとして、125 点満点中 80 点以上（ここで分類すると高得点層に該当）の合格ラインを獲得するためには、「医療・介護の言葉の理解を問う問題」や、実習や介護のアルバイト先でも学ぶことができる「介護のやり方理解を問う問題」を確実に正答していることが必要ということです。

一方、低得点層をみると、「介護のやり方理解を問う問題」の正答率が低く、養成校の勉強に加え、実習や介護のアルバイトでも理解を深められる項目も正答できていないことがわかります。

このため、各養成校では、**介護・医療の基本的な用語とその意味については徹底して対策していくことが必要です。** Point-1 また、これらの理解がなければ、「介護の方法を問う問題」や事例問題等に解答することも難しくなります。**実習や介護のアルバイト等、実体験を通した介護の複合的な学びによって理解が深まることがある一方で、養成校内で学んだ介護の方法と異なる等ことによって留学生が混乱することもあります。そのため、進捗を確認し、各科目の学びと統合することが必要です** Point-2。

3．国家試験の日本語の理解しにくいポイント別に見た留学生の特徴



留学生指導のポイント

Point-1 **国家試験に頻出する語彙を中心に、特に語彙の理解について学習漏れがないよう、意識して理解度確認／指導していく。**

Point-2 **試験問題を読むことに対する苦手意識をなくせるよう、多くの試験問題に触れ、たくさん問題を解く機会を作る。**

「介護の日本語」にかかる先行研究をふまえ、介護福祉士国家試験で使用される日本語のうち、留学生の課題となることが想定される日本語の難しさを 13 区分に整理し、どの分類が登場する問題に正答／誤答していたら留学生の合計得点が高いか／低いかを調べた結果、以下のような結果となりました。

（１）国家試験に登場する日本語で留学生が難しさを感じる点の分類

先行研究の分析結果による日本語の難しさ 13 区分は以下のとおりです。

図表：国家試験の日本語の難しさ分類

難しさを感じる日本語の分類		内容
大項目	小項目	
試験問題の文意のわかりにくさ	**長い文、複雑な文による難しさ**	・ １文が長いなど、構造が複雑であるケース
	受身形の使用による難しさ	・ 受身形が使用されているケース 【例】緩和された、限定されている、障害されやすい、 断られた、適用される　等
	否定表現による難しさ	・ 文章中に否定表現が使用されている 【例】加入している者は～することはない、 ～でなければ行うことができない　等
	主語が表示されない文による難しさ	・ １題の問題の中に複数の文が含まれていたり、複数の人物が出ているのに主語が示されないケース
試験問題の用語のわかりにくさ	**読み方の揺れによる難しさ**	・ 同様の漢字で別の読み方があるケース 【例】ウヘンマヒ／ミギカタマヒ、 ケンソク／ケンガワ　等
	表記の揺れによる難しさ	・ 同一表現で別表記も存在するケース 【例】続柄／続き柄、かぶり上衣／かぶり上着、 排泄／排せつ　等
	難解な漢語の使用による難しさ	・ 語彙自体が難しい漢字で表現されているケース 【例】骨粗鬆症、欠伸　等
	外来語／カタカナ語による難しさ	・ 外来語やカタカナ語が使用されているケース 【例】ペースメーカー、ミトン、ケアマネジャー、 カンファレンス、カテーテル　等

難しさを感じる日本語の分類		内容
大項目	小項目	
試験問題の用語のわかりにくさ（続き）	**多義語による難しさ**	・多義語が使用されているケース 【例】いどう（移動、異同、異動）、 しこう（嗜好、思考、志向、至高、歯垢） 等
	類義語による難しさ	・類義語が使用されているケース 【例】嘔吐物／吐物、内服／服用／服薬、 舌下剤／舌下錠、居宅介護／在宅介護 等
	複合語による難しさ	・２つ以上の意味のある言葉が重なって複合語として表記があるケース 【例】傾眠状態、意思伝達
	省略語による難しさ	・省略して表記があるケース 【例】人口 10 万対→人口 10 万人に対して、 原則黄色→原則として黄色、 咀嚼力→咀嚼能力 等
	長い漢字列による難しさ	・漢字の組み合わせで長い語彙になっているケース 【例】認知症対応型共同生活介護事業所、 全国健康保険協会管掌健康保険 等

（２）日本語で留学生が難しさを感じる点の分類別に見た留学生の特徴

結果は以下の通りです。

図表：日本語で留学生が難しさを感じる点の分類による留学生の学力評価試験点数高／低得点層の特徴

得点層	学力評価試験点数（125 点満点）	特徴
高得点層	**平均 87.9 点**	・「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題の**正答率が高い** ・「複合語による難しさ」に該当する問題の**正答率が高い**
中間層	**平均 56.4 点**	・「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題の**正答率が高い** ・「複合語による難しさ」に該当する問題の**正答率が低い**
低得点層	**平均 39.5 点**	・「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題の**正答率が低い** ・「長い文、複雑な文による難しさ」に該当する問題の**正答率が低い**

出典：試行試験・学力評価試験等　調査結果　報告書（令和２年度　本協会作成）より本協会にて取りまとめた

これらの結果から類推されることとして、125 点満点中 80 点以上（ここで分類すると高得点層に該当）の合格ラインを獲得するためには、「難解な漢語の使用による難しさ」、「複合語による難しさ」に該当する問題の正答率が高い等、語彙を理解して回答できている必要があることがわかります。

また、中間層においては、「難解な漢語の使用による難しさ」に該当する問題において得点できていたものの、「複合語による難しさ」に該当する問題については得点できていません。「複合語」については、後述「Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する」にも記載

していますが、意味を重ね合わせたり、知らない漢字があったら類推して意味を理解する等の能力が必要となるため、これらの訓練を行う必要がある（P37「（２）類推力のために必要となる「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」」参照）ことがうかがえます。

一方、低得点層をみると、「難解な漢語の使用による難しさ」の正答率が低いほか、「長い文、複雑な文による難しさ」の正答率も低く、語彙について理解ができないだけでなく、日本語の文章を読む、ということに関しても苦手意識を持っている特徴がみてとれます。

このため、各養成校では、**国家試験に頻出する語彙を中心に、特に語彙の理解について留学生の学習漏れがないよう、意識して常日頃から理解度の確認をしたり、指導していく必要がある** Point-1 とともに、**国家試験の文章を読んで回答するといった、試験問題を読むことに対する苦手意識をなくせるよう、とにかく試験問題に触れ、たくさん解いてもらうことが必要**である Point-2 といえます。



４．試験結果から見た留学生の特徴と対応

ここでは、学力評価試験の分析結果、および本協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果をもとに、（１）にて、得点が高かった留学生、中間的な得点の留学生、得点が低かった留学生を分け、それぞれ、どのような特性を持つのかを示し、（２）で、それらの特性に応じた留学生への養成校における対応（参考）を示しています。

あくまで、本協会が行った調査上での統計情報であるため、全国の養成校に属する留学生全てがこのケースに当てはまるわけではありませんが、留学生の指導の際の参考にいただきたいと考えます。

（１）試験の得点別に見た留学生の特徴



高得点の留学生の特徴

➢学力評価試験で 80 点以上獲得した層

属性項目	属性内容
国家試験への合格意欲	必ず合格したいと望んでいる
自宅での勉強時間	多くはない
養成校出の補講の参加頻度	対象の補講は参加する程度（対象外となることも有）
養成校の授業の理解度	高い
養成校の授業の満足度	やや高い
日本語理解能力	N2 以上
最終学歴	大卒以上
資格保持の状況	看護師資格保持

- 日本語能力が高く、国家試験への合格意欲も高い留学生です。
- 日本語能力試験 N2 以上を取得しており、基礎的な学習能力があり、最終学歴も大卒以上等、母国でもしっかり勉強してきた経験があります。
- 看護師資格を保持しているなど、疾病や障害等の理解がある留学生もいます。
- 基礎学力がある上、理解能力も高いことが想定され、勉強時間が多くなくても、合格ラインにたどりつけます。定期テスト等の点数も良いため、補講も対象になっていません。
- 国家試験の過去問題を繰り返し多量に取り組み、誤答した問題は、誤答の理由まで詳しく確認し、学習を深めている傾向にあります。
- 授業の理解度が高く、理解度が低い学生に合わせた授業レベルの場合、簡単すぎて満足できない、という方も一部存在します。

※　学力評価試験の分析結果、および本協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果より作成



中間層の留学生の特徴

➢ 学力評価試験で 60 点程度獲得した層

属性項目	属性内容
国家試験への合格意欲	必ず合格したいと望んでいる
自宅での勉強時間	授業日は 1 時間以上、週末は 3 時間以上勉強している
養成校出の補講の参加頻度	基本的には全件参加している
養成校の授業の理解度	やや高い
養成校の授業の満足度	やや高い
日本語理解能力	N3 程度
最終学歴	大卒未満
資格保持の状況	特に資格なし

- 日本語能力は N3 程度ですが、自分でもしっかり勉強している留学生です。
- 学歴は大卒未満が多く、日本語能力試験未受験の場合もあるため、学習能力は留学生によって差があります。
- 母国では特に介護や看護にかかわってきたわけではないため、介護の勉強については初めてこのことばかりです。ただ、その分、授業日も、授業日以外でも自分で勉強しています。
- 養成校の授業の理解度はやや高く、自分で勉強して、授業にはついていっているようです。
- 国家試験の合格意欲が高いため、補講にもいつも自ら積極的に参加しており、授業の満足度も高い結果となっています。

※ 学力評価試験の分析結果、および本協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果より作成



低得点の留学生の特徴

➢ 学力評価試験で 40 点未満の層

属性項目	属性内容
国家試験への合格意欲	合格への意欲は低い
自宅での勉強時間	授業日は 1 時間以上、週末は 3 時間以上勉強している
養成校出の補講の参加頻度	基本的には全件参加している
養成校の授業の理解度	低い
養成校の授業の満足度	高い
日本語理解能力	N3 以下
最終学歴	大卒未満
資格保持の状況	特に資格なし

- 日本語能力は N3 以下、学歴は大卒未満が多く、母国では勉強の習慣が少なかった方も多く、勉強方法がわからないという方が散見されます。
- 母国では特に介護や看護にかかわってきたわけではないため、介護の勉強については初めてのことばかりです。その分、授業日も授業日以外も自分でしっかり勉強し、補講にも参加していますが、頑張っても授業が理解できないことが多くあるようです。
- ただし、一生懸命勉強していることや教員のサポートを受けられていることから、授業の満足度は高い結果となっています。

※ 学力評価試験の分析結果、および本協会が別途行った養成校の教員・留学生に対するヒアリング結果より作成

（２）留学生の学習習得段階に応じた養成校の対応

留学生の学習習得段階は様々であり、それぞれの学習の進捗や理解度に合った指導が必要です。ここでは、留学生の学習習得段階に応じ、国家資格取得のために各養成校でどのように対応すべきか、という点について、モデル的な例を示すこととします。実際は、ここで示したものをそのまま適用すればよいのではなく、留学生それぞれの状況に応じ、各養成校で工夫する必要がありますのでご留意ください。

図表：学習習得段階に応じた留学生への対応（参考）

留学生の学習習得段階	対応方法
よく習得できている場合 ➢ 授業の理解度が高く、定期試験、模擬試験等の成績もよいケース	・通常の授業を行っていれば、問題なく国家試験には合格できる。個別具体的な指導も、試験合格の観点からは不要。ただし、継続的に努力できる学生であれば問題ないが、そうでなければレベル別の補講に参加してもらうなど介入していく ・就職してからのキャリアアップを見越し、チームリーダーとして活躍する外国人介護人材の紹介等、**レベルの高い留学生の知的好奇心を高めるようにサポート**していく ・授業の理解度が低い学生に合わせた授業に対して不満を感じることから、介護職自体を目指す意欲もなくなるケースがあり、モチベーションの維持に配慮した指導が求められる
平均的な場合	・通常の授業だけでは、国家試験合格が難しいため、授業ごとに**理解度を確認し、勉強の方法がわかっていない場合はアドバイス**する等が必要 ・介護の語彙など**基礎知識の理解を確認できるよう授業に工夫を行うとともに、大量の試験問題に触れてもらい、試験に慣れるよう指導**を行う ・留学生によって得意、不得意が異なり、**複数名での指導が難しい場合があるため、マンツーマンなど個別指導が効果的** ・**この層に属する留学生は、もうあと一歩で、試験の合格基準に達する可能性を大いに秘めている**
あまり習得できていない場合 ➢ 授業がよくわかっておらず、定期試験、模擬試験等の成績が悪いケース	・日本語理解能力が低いことにより、授業や試験問題が理解できないことが多い。国家試験を受験する年次でこのような状態だと合格は難しいため、**卒業年次までに、日本語や介護の基礎知識等が理解できるよう、集中指導が必要** ・授業内容を理解できない場合が多く、**教員が"最低限理解しなければいけないこと"等、学習内容のうち重要な観点を抜き出し、理解度を確認して行くことが必要**（あまりに高度な理解を当初から求めすぎない。理解度を確認しつつ、**ステップを踏んだ指導が最も必要**） ・基本的な項目の理解ができ、学習ペースがつかめれば、平均的な場合と同様に対応する

Ⅱ．国家試験に向けて養成校に求められる対応

この章では、本協会が行った各種試験、調査の結果をもとに、養成校が留学生の国家試験対策を行う際に参考にすべき点を記載しています。各養成校におかれましては、内容を参考にしていただき、日ごろのご指導に活かしていただければと考えます。

１．留学生の学習支援



留学生指導のポイント

Point-1	**入学の前提として日本語能力を確認する。筆記試験だけでなく、面接や作文等も活用し、総合的な日本語能力を把握しておく。**
Point-2	**入学の前提として介護福祉士の仕事についての理解を促した上で、資格取得の意欲をしっかり確認しておく。入学後も留学生の介護を学ぶモチベーションを維持する／高める工夫が必要。**
Point-3	**補足的に日本語学習を行う場合、卒業年次（国家試験受験年次）になる前に、最低限、授業で使用される日本語や、国家試験問題の日本語を理解する程度の日本語能力は身につけてもらえるよう計画して指導する。**
Point-4	**介護の学習においては、科目別に留学生の得意不得意があるため詳細に確認が必要。この際、各留学生の理解度を確認しつつ、留学生ごとの指導方針を考えていくことが重要。**
Point-5	**介護の学習、日本語の学習においては、介護施設・事業所と連携していくとよいが、養成校の授業と施設・事業所のやり方が異なることもあるため注意が必要。**

（１）入学選抜試験での対応

① 日本語能力の事前確認

本協会では、日本語能力試験 N2 相当の方に入学してもらうように示している（※）ものの、N2 を保持していても、日本語での会話が難しい留学生も存在することに注意が必要です。N3、N4 になるとなおのことであり、日本語能力がそれほど高くない留学生の場合、**入学後、講師の話す日本語が聞き取れなかったり、理解できないまま授業が進んでしまいます**。このようなことから、**日本語能力について事前に確認することは大変重要** Point-1 です。また、授業においても理解できているか確認をすることが必要です。

※　本協会「外国人留学生受入れに関するガイドライン」より

以下、令和 2 年度に本協会が養成校向けに行った調査（以下、「R2 調査」といいます）でも、入学時日本語要件を N2 以上と定めている養成校と、そうではない養成校では、学力評価試験の点数にも明らかな差が出ています。

図表：学力評価試験点数（学校平均）別の入学時に定める JLPT 要件

		調査数	N1	N2以上	N3以上	N4以上	N5以上
	全体	95	2.1	46.3	47.4	4.2	0.0
留学生の学力評価試験点数（学校平均）	70点以上	10	0.0	**70.0**	**30.0**	0.0	0.0
	50点以上70点未満	29	0.0	44.8	48.3	6.9	0.0
	50点未満	13	0.0	**30.8**	53.8	**15.4**	0.0

出典：養成校に所属する留学生の学習指導に関する調査　調査結果　報告書（令和 2 年度　本協会作成）

※　学力評価試験の学校平均 70 点以上を獲得している養成校のうち 7 割が、入学時日本語要件を「N2 以上」としている。

留学生の日本語能力を確認する方法としては、基本的には日本語能力を図る各種試験（JLPT 等）の点数となりますが、学力評価試験点数の高い養成校では、**これに加え、面接、作文等の試験形式を活用し、実際に日本語が活用できているかを確認している**養成校が多くありました Point-1。

② 介護を学びたい意欲の事前確認

日本語学校から養成校に入学する留学生のなかには、特に介護を学びたいわけではないが、日本に長期間滞在したいことから養成校に入学したいと考える留学生も存在することが想定されます。日本語を母国語としない留学生にとって介護の勉強は大変難しく、**介護の仕事をしたい、必ず国家試験に合格したいといった強い意向がない留学生の場合、国家試験に向けた勉強を継続的に実施することが難しい**でしょう。入学前の段階で、就学中の授業のイメージや国家資格取得に向けて、**どれほど勉強が必要かということを理解してもらった上で入学試験を受けていただく**等の取り計らいが必要です Point-2。

以下、R2 調査でも、留学生の国家試験の合格意欲は、試験結果の多寡に影響していることがわかっています。

図表：学力評価試験点数（学校平均）別の留学生の国家試験合格意欲

		調査数	必ず合格したい	できれば合格したい	合格したくない	今まで合格したいかどうかを考えたことがない
	全体	990	69.2	28.8	0.6	1.4
留学生の学力評価試験点数（学校平均）	70点以上	124	**88.7**	**8.9**	1.6	0.8
	50点以上70点未満	269	66.5	31.6	0.7	1.1
	50点未満	265	61.1	36.2	0.4	2.3

出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査　調査結果　報告書（令和 2 年度　本協会作成）

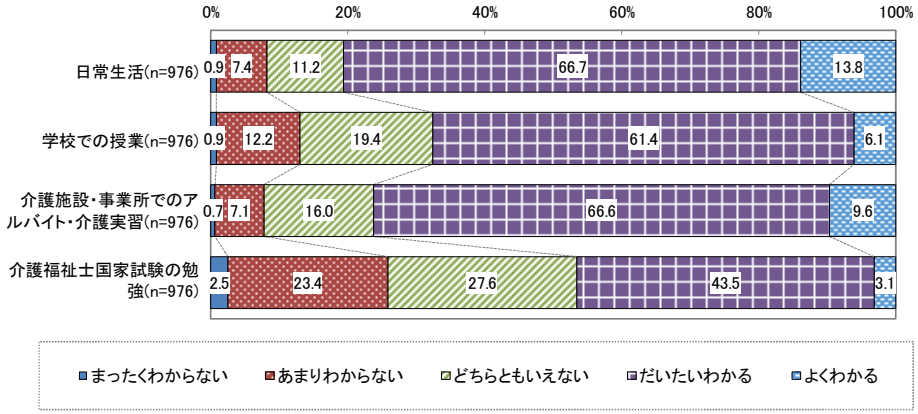
※　学力評価試験 70 点以上を獲得している留学生のうち約 9 割が、国家試験に「必ず合格したい」としているが、70 点未満の学生はこれと比べて合格の意欲度合いが低い。

（２）養成校での日本語指導

① 留学生の日本語理解のレベル

R2 調査では、養成校での授業の日本語を、留学生の約 3 割強が「わからない」（まったくわからない＋あまりわからない＋どちらともいえない）と回答しています。特に、介護福祉士国家試験の勉強で使用される日本語は、半数強の留学生が、よく理解できないとしており（まったくわからない＋あまりわからない＋どちらともいえない）、国家試験に合格するためには、介護学習にからめた日本語能力上達は必須事項といえます。

図表：状況別　留学生の日本語理解のレベル



出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査　調査結果　報告書（令和 2 年度　本協会作成）

② 養成校で行う日本語学習についてのサポート

日本語能力が十分ではない留学生が入学した場合は、養成校での学習を理解するためにも早期に日本語能力の向上に向けてサポートすることが求められます。卒業直前までこういった日本語のサポートをしているのでは、国家試験に間に合わないことが想定されます。**卒業年次までに、授業で使用される日本語や、国家試験問題の日本語を理解する程度の日本語能力を身につけてもらうよう、計画を立てて指導しましょう** Point-3。

具体的なサポートとして、クラス担任等とは別に、「日本語の専任教員を配置する」、「日本語学習の授業を補講で行う」などのサポートが想定されます。

養成校の教員は日本語の専門家ではないため、日本語の学習支援については、日本語学校と連携して行うとよいでしょう。日本語学校には、日本語、英語以外の多言語対応のできる人材が在籍していることも多く、そのような方に、留学生の相談支援対応を依頼することも可能です。個々の留学生の日本語学習状況を踏まえた上でのサポートを行いつつ、補講については、「国家試験の日本語学習」「日本語能力試験対策」、「日本語日常会話」、「漢字の意味と書き方」、地域によっては「方言について」等、様々な内容が考えられ、留学生や養成校の状況に合わせた補講を行うことが必要です。

日本語の学習支援で使用する教材については、介護教員と日本語教員が連携し、国家試験で使用される語彙が使用される介護に関する教材を活用するのが効果的です。日本語教員に、国家試験の問題文を熟読いただき、どのレベルの文章を理解できないとならないか、使用される介護の用語はどのようなものがあるか等理解いただいたうえで、日本語指導を頂くのが効果的です。

さらに、大学や NPO、日本語学校等の日本語教育機関と連携し、日本語能力向上の講義を実施するなども効果的です。

なお、「国家試験の日本語学習」は、国家試験で使用される言い回しなどを指導する必要があることから、国家試験で使用される日本語についての解説については、後述する「Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する」（P34～P44 参照）、および、教員が指導する際の日本語の使用方法については、別冊「留学生指導についての指導のポイント」（P27～P35 参照）を参考にしていただき、各養成校で指導してください。

図表：想定される日本語学習指導のフロー（N3 以下の留学生も多数存在する場合）

年次	日本語そのものの指導	介護の日本語に関連した指導
卒業年次以外（1 年目等）	文法、単語など N2～N3 レベルの学習	授業内容を日本語のレポートにして提出してもらい、日本語の理解と授業の内容理解をセットで確認
➡ 卒業年次を迎えるまでに最低でも授業で使用される日本語や、国家試験問題の日本語を理解する程度の日本語能力を身につけてもらうことが重要 Point-3 **➡ 上記が達成できないと国家試験合格は難しい可能性が大**		
卒業年次（2 年目等）	特になし（一定の日本語習得は終了している段階）	引き続き授業内容のレポート等を提出してもらい、理解度をチェックする

※　N2 レベルの留学生が殆どの養成校では、そもそもこういった指導はあまり必要なく、介護の勉強、国家試験の対策を中心に注力できていることに留意



一口メモ：計画的に学習することができる学生への目配り

介護の勉強が主となる養成校ですから、日本語能力については留学生自身が、授業を理解できるレベルまで自ら高めていくことが必要です。入学後時間が経過するにつれ、その努力が見られない留学生と、しっかりと自分で能力をつけて勉強している留学生とでは、能力に大きな差が出てきます。

授業についてくることができない留学生への補講や個別指導を行うなど関わる時間が長くなることで、他の留学生や日本人学生の指導の時間が短くなりがちであることが課題として挙げられました。授業の理解もですが、留学生自身が抱える就学上の悩みや課題は様々です。一人の教員で抱え込まず複数の教員等で連携し、ひとり一人の留学生を介護福祉士として育てていきましょう。



（３）国家試験対策と絡めた介護の授業

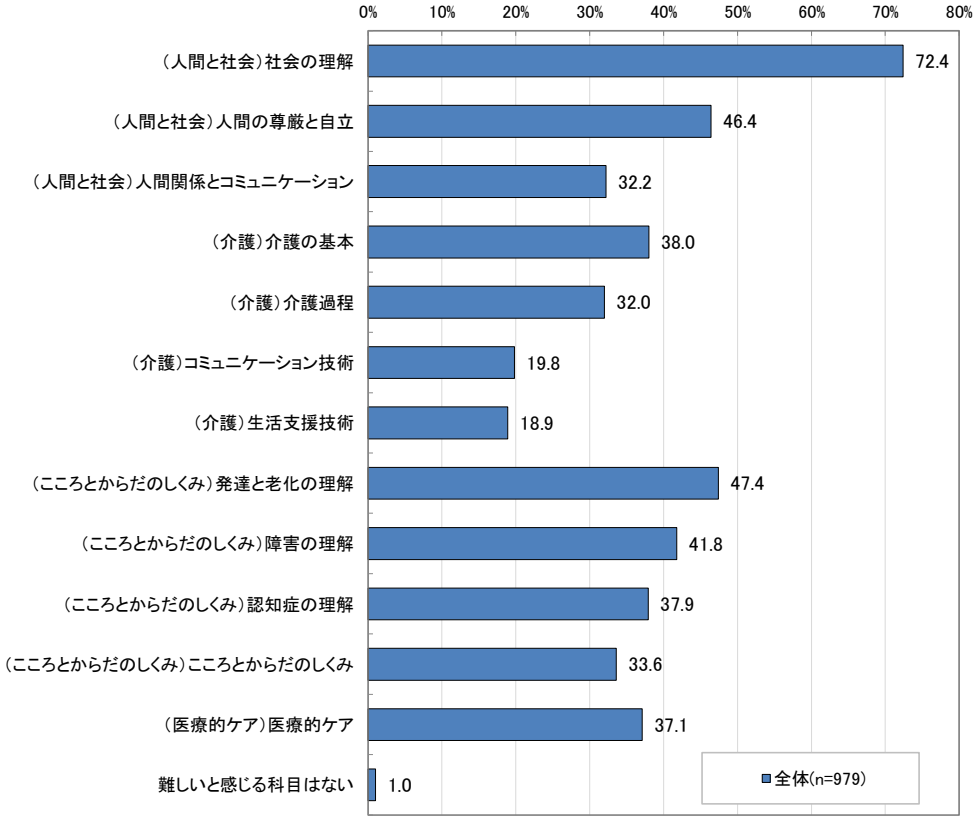
① 留学生が難しいと考える科目と、授業の理解度

R2 調査では、留学生が最も難しいと考える科目は、「社会の理解」でした。本科目は令和元年度国家試験や令和 2 年度国家試験においても留学生の得点率が最も低い科目、かつ日本人学生の得点率も低い結果となっています（P7 参照）。

次いで難しいと回答があった「発達と老化の理解」は、令和元年度国家試験や令和 2 年度国家試験において、日本人学生の得点率は 76.9%と低くない（P7 参照）結果となっています。

科目別にみた留学生の苦手意識、実際の得点率等の特徴は様々であり、科目ごとにどのように授業や補講を組立てていくかが重要 Point-4 です。

図表：留学生が授業で難しいと感じる科目



出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査結果　報告書（令和 2 年度　本協会作成）

一方、留学生の学力評価試験点数の多寡で各科目をみると、点数が低い留学生ほど、多くの科目で難しいと感じている傾向にあるほか、「社会の理解」、「障害の理解」、「介護の基本」については、その他の科目と傾向が異なり、学力評価試験の点数が高い場合や日本語理解能力が高い場合ほど、難しいと感じる傾向がみられました。

「社会の理解」、「障害の理解」等においては日本人学生、留学生ともに難しいと感じていますが、**学習が進んでいない留学生の場合は、何が難しいのか、という判断もできていないことが考えられます**。

図表：留学生が授業で難しいと感じる科目

		調査数	人間の尊厳と自立	人間関係とコミュニケーション	社会の理解	介護の基本	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	発達と老化の理解	認知症の理解	障害の理解	こころとからだのしくみ	医療的ケア	難しいと感じる科目はない
	全体	979	46.4	32.2	72.4	38.0	19.8	18.9	32.0	47.4	37.9	41.8	33.6	37.1	1.0
留学生の学力評価試験点数	70点以上	162	43.2	23.5	82.1	38.9	9.9	12.3	22.2	51.2	32.1	47.5	32.7	19.8	0.0
	50点以上70点未満	186	47.8	31.7	76.3	38.2	15.1	15.1	28.5	47.8	37.1	43.0	36.0	32.3	1.1
	50点未満	272	51.8	37.9	70.6	40.4	24.6	23.9	34.9	50.7	41.9	39.7	36.4	49.6	0.4

出典：養成校に所属する留学生の学習に関する調査結果　報告書（令和２年度　本協会作成）

このため、**授業を進める上では、留学生の理解度を適宜把握しながら、授業を進める必要**があります Point-4。

図表：留学生の理解度の確認方法（参考）

シチュエーション	理解度の確認方法
授業中	・表情等を観察し、わからなさそうな顔をしている場合、声をかけて確認する ・授業内容にかかる質問をして、どのような回答があるかを確認（日本語が不自由な場合は、「はい」「いいえ」などで回答できるように質問を工夫することも必要） ・授業ごとに確認テスト(ミニテスト)を行う　等
授業外	・授業内容にかかる確認テスト／定期試験等の結果を元に確認する ・授業内容のレポートを日本語で記載してもらったものを提出してもらい、その内容を確認する　等

なお、**理解度を把握したら、その結果を活用し、留学生それぞれについて指導の対応策を考え、実行していく必要があります** Point-4。留学生の学習習得段階別の養成校の対応策については、P17 に記載しているので、参照ください。



一口メモ：授業の満足度と理解度の違い

留学生の授業への満足度と授業の理解度は、一致していないことも多いです。留学生自身は、家で頑張って勉強していることや教員が丁寧に教えてくれることなどから、養成校の授業には満足していますが、実際には授業内容を理解できていないということがあります。一方で、学習の理解度が早い留学生ほど、わからない留学生に合わせた授業のレベルに不満を感じているということもあります。

このように、留学生の満足度が高い＝理解度が高いということは、別のことだと認識し、留学生指導に取り組むことが必要です。

② 養成校の行う国家試験対策

国家試験に合格するためには、通常の授業に加え、国家試験対策や模擬試験等を行い、試験に慣れてもらう必要があります。

「通常のカリキュラムに国家試験対策の授業を盛り込む」、「国家試験対策の補講を実施する」、「模擬試験を実施する」等の対応が挙げられます。また、「施設見学や施設利用者との交流会」などの体験を取り入れることで、学んだことの理解を促すことや深めることができます。

さらに、国家試験のミニテスト、模擬試験等を行った際はその結果を活用・分析し、指導に活かしていくことも重要です。

なお、**国家試験への対応としては、問題に慣れることが大変重要**です。**授業内容を十分に理解していても、問題の読み間違え等で失点することもある**ため、**1年次から、授業の中でミニテストを行うことや「国家試験ではこのように出題された」と触れることなど、国家試験に対する動機付けや慣れるような工夫をすると効果的です**。また、携帯電話等で使用できる国家試験等のアプリを活用して留学生に日ごろから問題形式に取り組んでもらう、というのも有効です。

図表：想定される国家試験対策のフロー（参考）

年次		具体的な国家試験対策
卒業年次以外（1年目等）	**前期**	・授業のミニテスト、理解度テスト等で国家試験問題の5択問題等を頻繁に出題し、設問に慣れてもらう
	後期	・上記理解度を図った結果、芳しくない留学生には個別指導を行ったり、補講を実施したりして対応する
卒業年次（2年目等）	**前期**	・上記を行いつつ、一度過去問等の国家試験問題125問を全問模試形式で解いてもらい、留学生にどこまで得点できるか確認。併せて留学生の得点の傾向分析や、誤回答内容の分析を行う。 ➡試験結果によって、補講対象の学生を決めたり、教員による個別指導の計画を立てる等行う ・通常授業でも週に1.2回以上国家試験の問題を解く授業を全員必須出席で行い、解説を行うとともに、国家試験過去問等で点数が高くない学生には国家試験対策専用の補講を追加で行い点数アップに努めてもらう
	後期	・10月からは合格に向けた国家試験対策を本格的に始動させる。 ・通常授業では週に2.3回以上国家試験の問題を解く授業を全員必須出席で行い、解説を行うとともに、国家試験過去問等で点数の高くない学生には国家試験対策専用の補講を追加で行い点数アップに努めてもらう ➡試験結果によって、補講対象の学生を再編したり、教員による個別指導計画の見直し等を行う
	国家試験直前期（11月以降）	・11～12月ごろには通常のカリキュラムの授業を終了させ、国家試験対策を中心とした授業運営に移行する ➡高得点を取ることのできる留学生は自習でも良いが、そうでない留学生は、基本必須出席



一口メモ：各養成校の国家試験対策

★令和元年度留学生 16 名すべてが国家試験に合格した養成校より★

国家試験合格のために、とにかく、試験問題をたくさん解いてもらうことが重要です。過去問、模試等とにかくたくさん取り組んでいます。国家試験直前期の 1 月は、毎日、模擬試験を実施して留学生に解いてもらい、合格点に達しなかった留学生は放課後残ってもらい、補講を行っていました。また、試験結果をもとにしてクラス分けを行い、ミニテストや模試の結果等は詳細に分析して各留学生の指導に活用していました。こういった繰り返しを行うことで、留学生が試験問題に慣れ、かつ知識も付き、全員の国家試験合格に導くことができました。

★3 年制の養成校より★

2 年制の養成校が多い中、当校では 3 年制とし、留学生指導にあたっています。授業期間中の平日は、午前に授業・午後は自由時間となり、午後、多くの留学生が介護施設等でアルバイトを行っています。留学生は入学時に授業での日本語理解が難しい部分もあり、1 年次は主に介護の日本語の指導を行うことになりますが、そこで多少の授業の遅れがあっても、残り 2 年で調整することが可能です。また、国家試験対策も、2 年次から 2 年間、余裕を持って対応できています。

このように、3 年課程にすることで余裕をもって就学することができます。1 日に学ぶ内容（科目）が少ないこと、自由時間が増えることで、留学生自身が復習や課題に取り組む時間も増え、無理のないスケジュールで学習を重ねることができます。また、介護施設等のアルバイトも長い期間経験できるため、理解を深めることにつながります。

★日本語指導と国家試験を組み合わせた補講を行っている養成校より★

日本語教員と介護教員との連携は重要です。日本語教員は、介護の専門用語はわからないため、介護福祉士国家試験問題を解いていただき、介護業界の知識も含めて理解していただいています。日本語教員が持つ疑問点を、介護教員に適宜質問していただき、介護用語や国家試験特有の言い回し等について、補講として日本語教員から学生に指導をしています。

このように、留学生は、日本語の勉強をしつつ、介護の勉強をしている状況であり、効率的な学習ができています。

③ 科目別の指導のポイント

国家試験対策を行う上では、**科目別に留学生が苦手とするポイントを見つけ、理解できるように指導していくことも必要**です。また、**それぞれの科目は関連している項目も多く、関連科目担当教員で共通認識を持ち指導に当たることや、日本語教員と連携して指導していくことも必要**です。

別冊「留学生指導についての指導のポイント」（P38～P56 参照）では、教員向けとして、領域別に留学生への指導のポイントをまとめていますので、参照してください。



（４）介護施設・事業所と連携した留学生の指導

留学生が近隣の介護施設等でアルバイトすることは、コミュニケーション能力や介護技術の向上など資格取得に向けて効果的です。また、養成校にとっても、介護施設等と連携することで介護現場における留学生の理解度や課題の把握、アルバイトの時間管理がしやすくなるなどのメリットがあります Point-5。

一方で、留学生が一時帰国を希望したにもかかわらず、アルバイト先の介護施設等に難色を示された等の事例もあり、養成校の職員が、アルバイト先の介護施設等と十分に連携しながら対応していく必要があります。

図表：介護施設・事業所との連携内容（例）

連携トピック		内容
留学生がアルバイトをしている介護施設･事業所との連携	**学習の進捗管理**	・養成校側からミニテスト、定期テスト等における学生の理解度等を設･事業所と共有し、アルバイトにおける介護の理解等が進むよう促してもらう ・施設･事業所側から留学生が現場で理解が難しいことやできていないこと、ヒヤリハットになったこと等を共有してもらう ・定期試験、国家試験前等にアルバイトをしなくてよいように日程調整を行う
	各種学習指導のサポート	・施設でも実践を通じて介護の根拠の説明や疾病等の説明や、コミュニケーション技術の習得につながるように意図的に関わってもらう ・施設･事業所で行われている介護の研修等に、留学生も参加させていただく
	実習先	・実習先としての連携
上記以外の介護施設･事業所との連携	**施設･事業所見学先**	・留学生が高齢者と触れ合う先として、施設･事業所を活用させていただき、施設理解や利用者理解を促す
	地域連携	・夏祭り等のイベントにて施設･事業所と共同し、留学生へ地域住民とのふれあいの場を提供

なお、養成校で修学する留学生のために、奨学金を設置している事業所もありますので、留学生に情報提供してもよいでしょう。



一口メモ：養成校で学んだ技術とアルバイトや実習先での技術の違い

介護施設・事業所で指導をいただくことで留学生の学習能力の向上が図れる一方、養成校の授業で学んだ事柄と介護施設・事業所でのやり方・教え方が異なる場合、留学生が混乱することもあるためフォローが必要です。

養成校で教員が教えていることは基本となる介護技術であり、現場では個々の利用者にあわせて応用実践されています。ここは、留学生が混乱しないよう、教員から丁寧に説明し、留学生に理解してもらう必要があります Point-5。

（５）介護学習を行う上でのモチベーション管理

留学生が、介護の学習を楽しいと思えたり、また介護は大切な仕事でやりがいのある仕事だと思えるよう、授業でもモチベーションの維持や向上に向けて働きかける必要があります Point-2。各科目で学ぶ専門知識と紐づけて、何のために介護という職業が存在するかを説いたり、机上の授業だけでなく、実習や介護施設等でのアルバイト、課外授業での高齢者とのふれあい等の機会も活用し、介護の大切さ、介護福祉士が専門的に関わることによって利用者にどのような影響があるのか等、介護の仕事の専門性や魅力を理解してもらうようにしましょう。また、資格取得後、介護職として現場でどのようにキャリアアップしていくか等、専門職としての発展的な話をすることも効果的です。



一口メモ：介護を魅力的に感じてもらえるような工夫

介護職として働くことを魅力的に感じてもらえるよう、授業内外で工夫することも重要です。

ある養成校では、「介護がどのように魅力的な職業か」ということを留学生自らプレゼンテーションする授業を行っています。

また、介護の仕事＋α で利用者に対してどのような価値を提供できるかという点で、選択科目にてアロマ・メイク・クッキング・音楽療法等を留学生に選択してもらい、地域の一般高齢者へ実践する授業を行っている養成校もあります。

出身国によっては、80 代～90 代などの高齢者と日常で一般的に触れあう機会がなかった留学生も存在することが考えられ、高齢者とのふれあいは、「高齢になるとどのような機能が衰えるのか」等、老いることの理解を深めることにもつながります。その意味では、養成校で夏祭り等地域のイベント等に参加する、なども試みとしてよいかもしれません。

（６）卒後支援／卒業生との交流

国家試験の結果が不合格であった場合は、国家試験合格のための卒後支援を行いましょう。

具体的には、補講や国家試験対策の授業や模擬試験の実施等です。この場合、卒業留学生は養成校に複数回来校することになるため、現場で困っていることはないかなど、話を聞くことで離職の抑制にもつながります。また、**相談支援や、勉強相談会等を在校留学生と合わせて行うことで、卒業留学生、在校留学生の交流の機会にもなり、それぞれのモチベーションの向上にもつながり**ます。

２．留学生の学習環境の整備



留学生指導のポイント

Point-1 **留学生が落ち着いて学習に励むためには、生活環境の整備が重要。ただ、画一的なものではなく、留学生の個別事情に合わせて調整が必要。**

Point-2 **生活全般のサポートは既存のマニュアル等が作成されているので、それを参考にするとよい。**

Point-3 **生活全般に悩み等がある留学生は、学習に身が入らない傾向があるため注意が必要。**

Point-4 **生活指導は別担当等で配置し、介護教員は学習の指導に専念する。**

日本語学校を卒業して日本での生活に慣れている留学生が多いとはいえ、未だ日本の文化に不慣れな留学生もいます。

生活上の問題を抱えていると、学業に身が入らなくなるケースが多く、**留学生が落ち着いて学習に励むためにも、生活環境の整備が重要**です Point-1。

R2 調査では、学力評価試験の得点が高い養成校では、そうでない養成校に比べ、寮の整備や礼拝所の設置等、複数の項目において留学生の学習するための環境整備を行っていました。環境の整備は一定程度試験結果に結びつくことから、参考にしていただきたいポイントです。ただ、**これら文化や習慣の違い、留学生の個別事情も多分に影響します。留学生の状況を見つつ、どのような対応が必要か、養成校にて個別に検討していく必要がある**点にご留意ください Point-1。

（１）留学生が抱える生活全般の問題について

① 住環境

複数の留学生や他の在留資格の外国人と複数人でシェアハウスしているケースがあります。この場合、自宅で落ち着いて勉強ができる環境にないため、学校に自習スペースを設ける、部屋を借りるサポート、寮の整備等を行うことで、学業に集中できる環境が作り出せます。

② 宗教・信仰

それぞれの宗教によって様々な服装やお祈りの儀式がありますが、それらが理由もなく否定されたり、理解してもらえないなど、信仰する宗教に配慮がないことで不安を感じる方がいます。宗教によっては礼拝の部屋等を用意する必要もあるでしょう。

③ 文化や習慣の違い

母国では「ほめられる」文化にいた留学生も多く、怒られることに慣れていない可能性もあるため、指摘等の仕方にも注意が必要です。

また、時間管理については、留学生が授業に遅刻すると咎められるのに、教員が授業を延長することがあるなど、始まる時間には厳しいのに、終わる時間には寛容、などの文化に違和感を持つ学生も多く存在します。

その他、ゴミの捨て方がわからない、母国の気候との違いに慣れておらず冬寒く辛い等、あらゆる観点から不安に感じることが多くあります。

各留学生の特性に応じ、適切な対応が必要です。

④ 各種保険等の事務手続き

国民年金や健康保険等の社会保険のしくみを理解していない留学生も多く存在します。また、住所変更や在留資格の期間の更新等の事務手続きが困難である可能性もあります。

なお、留学生の健康保険については、「国民健康保険」が適用され、市区町村役場で居住地の届出をする際に、一緒に国民健康保険の加入手続きを行います。日本に滞在する留学生は必ずこの保険に加入しなければなりませんが、保険料は、地域やその他の事情によって異なります。国民健康保険に加入することによって医療費（歯の治療を含む）の 70%が減免されるため、留学生自身の負担は治療費の 30%となります。

このような手続きは、養成校の事務担当職員等と協力し、指導・対応しておきましょう。

⑤ 修学資金等、お金に関すること

アルバイトをしながら修学資金を支払っているだけでなく、母国に仕送りをしている留学生も多く存在します。病気になった等でアルバイトが続けられず生活に困る、アルバイトをしても生活費が足りず困る、等の事例があります。

養成校で修学する留学生には、以下の奨学金を貸与できる可能性があるため、適宜、留学生に情報提供してください。

なお、奨学金については、修学するための資金であり、仕送りや日本で遊ぶためのものではないことを留学生に十分伝えておく必要があります。

図表：留学生が受けることのできる奨学金

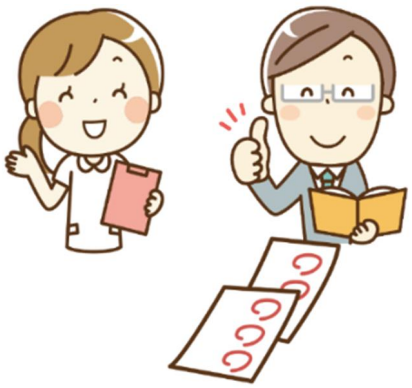
奨学金名	内容
介護福祉士修学資金貸付事業の奨学金	養成校の在学生で、将来、介護業務等に従事しようとする方に対し、資金の貸付を行う事業です。各都道府県の社会福祉協議会が実施しており、養成校卒業後に貸主の都道府県内において就業することを奨学金貸与の要件としているケースが一般的です
日本学生支援機構の奨学金	無利子貸与の「第一種奨学金」と利息付貸与の「第二種奨学金」があります。養成校の奨学金貸与対象学科の正科生であり、経済的理由により修学に困難で優れた学生等であると認められる人であれば、奨学金を受けられる可能性があります
都道府県・市町村からの奨学金	介護職種の人材確保の関係から、都道府県や市町村等でも、養成校に入学する学生に奨学金を給付・貸与している場合があります。ただし、養成校を卒業後の就職先が奨学金の給付・貸与を受けた地域に限定される場合もあります
介護施設等からの奨学金	将来、奨学金の貸与を受けた介護施設で就職することなどを要件に、養成校に入学する留学生に奨学金を貸与している介護施設があります



一口メモ：奨学金制度の活用

奨学金は成績等にかかわらず利用できるものですが、実際に利用している留学生は多くなく、制度を知らない、という留学生もいます。国家試験合格のためには自学自習が必要ですが、その時間をアルバイトに割き、勉強時間が少なくなっている可能性も存在します。

奨学金を活用すれば、アルバイト時間を減らせる可能性もあり、奨学金情報は広く留学生に周知してもよいでしょう。



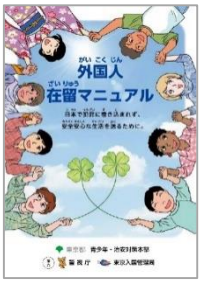
（２）生活全般についてのサポートについて

留学生は、それぞれの個性を持っており、悩みも十人十色です。また、留学生のなかには、わからないことを「わからない」と言えずに困っているケースもあるほか、お金がないため医療機関にかからず体調不良を我慢しているケースもあります。それぞれの持つ不安や疑問について、日頃からのコミュニケーションを大切にし、できる限り不安を聞き出した上で共に解決し、健康に修学できるサポートすることが重要です。

また、留学生が気兼ねなく不安を話すことができる環境という意味では、母国語で話せる場があることも効果的です。日本語学校や大学、NPO 等と連携し、そのような機会を作るのもよいでしょう。

在留資格に関することや、文化の違いに関すること等、事前に想定されることについては、在留資格関連：出入国在留管理局の手続きを把握する、文化の違い関連：留学生の母国の状況や環境を調べて職員が理解しておく、等の対応も重要です。

留学生への生活全般のサポートをする際には、国・自治体等が作成している既存のマニュアルも活用できます Point-2。例えば、東京都や警視庁が作成している「外国人在留マニュアル」（右記イメージ）では、ゴミ出しのマナーから在留資格の手続きに関することまで様々な事柄が、簡潔に、かつ日本語のふりがな付きで記載してありますので、目を通しておくとともに、留学生にも情報提供すると良いでしょう。



なお、**留学生にとって、こういった生活全般の事柄に悩んでいると学習の妨げになる** Point-3 だけでなく、**教員の時間をこれらのサポートに費やしすぎると、学習の指導の時間を圧迫し兼ねないため注意が必要**です。**生活サポートについては、生活支援担当等の専門に対応する方を設置する、複数の教員で連携する**など、学習指導の妨げにならないようにしましょう Point-4。

３．養成校での留学生指導についてのまとめ

令和元年度に本協会が行った R2 調査の結果から見ると、高得点を取ることのできる養成校と、そうでない養成校においては取組内容、体制においても差があることがわかっています。質の高い介護人材を輩出いただくことを養成校は第一に考えているところではありますが、**その質を担保するという意味でも、国家試験に合格する必要があります**。

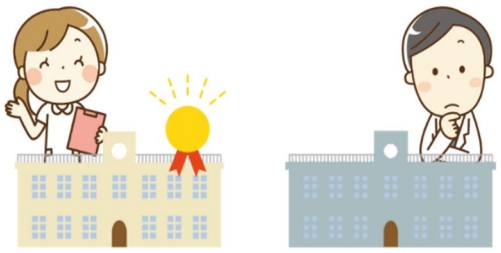
各養成校の状況に応じた対応が必要となってきますが、**本ガイドラインに掲載する事柄を参考に、養成校の留学生受け入れ体制の見直しや、指導の参考にする等、ご活用いただければと考えます**。



一口メモ：高得点の養成校の特徴

本協会が行った学力評価試験で 75 点以上の学校平均点を取得した養成校のアンケート結果、およびヒアリング結果から見えた特徴として、以下のものが挙げられます。留学生の学習習得段階にあわせて介護や日本語の学習を手厚くサポートしている様子がうかがえました。

- 入学時の日本語能力試験の要件を N2 以上と設定しているため、学習に必要な日本語理解／学習能力のある留学生が入学している。
- 一般的なテキストを使用して授業を行っており、留学生用に特別な教材を用意していないが、**介護学習をサポートするための専門部署を設置したり、日本語の学習をサポートするための体制を構築する等、学習のサポート体制を十分に整備**している。
- 留学生に対して**個別の進捗管理を行い、レベル別に指導を行っている**養成校も多く、これ以上留学生の人数が増えると対応ができなくなる等の理由から、現状以上の留学生数の増加には積極的ではない。
- 国家試験対策は模試・ミニテストの実施、介護の補講も行っていますが、留学生の自主性にも任せている部分もあり、**留学生の能力によって実施頻度は変えている**。



Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する

この章では、留学生への指導に関し、前提となる「国家試験の日本語」について記載しています。養成校の教員が留学生の国家試験対策を行う上で基礎中の基礎となる考え方であり、まずこの内容を理解いただき、各教員の皆様におかれましては留学生の指導にあたっていただきたいと考えます。

なお、実際の国家試験問題で、留学生がどのような単語・概念が分からず誤回答をしたかについては、後述する「巻末参照編：令和元年度国家試験　誤回答の分析」（P45～P81 参照）に、誤回答理由の一覧を掲載しているほか、別冊「留学生指導についての指導のポイント」（P9～P16 参照）では数問の問題を取り上げて誤回答理由の解説をしていますので、参考にしてください。

１．国家試験で登場する日本語を理解する

	**留学生指導のポイント**
Point-1	**まずは国家試験の日本語を知ることが重要。**
Point-2	**国家試験で使用されている語彙の分野は多岐にわたるため、外国人は国家試験の語彙を難しいと感じ、ひいては国家試験の日本語が難しいと感じる。**
Point-3	**国家試験で使用されている文法は、それほど多くの文法事項が使われているわけではない。**

（１）国家試験の日本語をよく見てみよう

介護福祉士国家試験は外国人にとって、難しいとよく言われます。特に日本語が難しいことが外国人の合格率が低い理由に挙げられることが多い現状があります。国家試験は日本語による試験であり、日本語を 1～2 年ぐらいしか勉強していない外国人にとって、難しいのは当然のことです。

では国家試験の日本語の何がどう難しいのでしょうか。まずは、日本語という観点から国家試験をよく見てみる必要があります。**国家試験の日本語を知ることで、国家試験対策の指導方法も自ずと見えてくる** Point-1 のではないでしょうか。

（２）国家試験の日本語の何が難しいのか

国家試験の問題を開くと、一見して難しいと感じるでしょう。それは「なぜか」。使われている語彙が難しいからです。介護専門の漢字語彙です。誤解のないようにしたいのは、あくまでも専門語彙で普段の生活では使用することが少ないという意味です。

第 31 回、第 32 回の国家試験をみると問題 1 は事例問題になっています。10 行ほどの文と使われている漢字の言葉に圧倒され緊張するかもしれません。第 32 回の国家試験の問題 1 から漢字語彙を拾ってみると、「人工透析、延命治療、選択、意思決定、計画書、最期、提供、責任者、対応、意向、想定」などの漢字語彙が使われています。

国家試験の日本語が難しいと感じるのは、全体を通しての漢字語彙の難しさによるものだと考えられます。

（３）語彙が難しいのはなぜか

国家試験の語彙が難しい理由として次の 2 点が考えられます。

まず 1 点目は、使用されている語彙数が多いということです。一般社団法人国際交流＆日本語支援 Y は EPA 介護福祉士候補者に国家試験対策のテキストを提供していますが、その中の 1 冊に「介護の言葉と漢字国家試験対策ウォーミングアップ」があります。同テキスト作成にあたり、7 年分の国家試験から漢字語彙を抜き出してみたところ、約 22000 語ありました。はっきりした記録がないのが残念ですが、その中で使用頻度 15 回以上の漢字語彙はそれに比べてずっと少なく、約 300 語彙ぐらいではなかったかと記憶しています。このことからみても、使用されている語彙数が多いということがわかります。

2 点目には、使用されている語彙の分野が多岐に渡っているということが挙げられます。

国家試験の科目は 12 科目あり、「憲法第 25 条からジャガイモの芽まで」と例を挙げたことがありますが、法律、制度から家事、人体、病気など、それぞれに使われる語彙の種類が違っています。

以上 2 点から、**外国人が国家試験の語彙は難しいと感じること、ひいては国家試験の日本語が難しいということになっている** Point-2 と考えられます。

（４）文法について

国家試験には日本語の難解な文法が使われているから、文章の理解を困難にしているということもよく聞きます。はたしてそうでしょうか。ここでも、国家試験の文章をよく見てみましょう。

第 32 回の国家試験では、総合問題を除いて、事例文は 113 問中 27 問あります。そのうち 5 行以上の文の事例文は 11 問です。国家試験では長文は少なく、文章が短いということは、そこで使われる文法事項は少ないということです。結論からいうと、国家試験の日本語文法は決して難しくないといえます。総合問題の事例文以外、長文は少なく、2～3 行ほどの文の事例問題、1～2 行の問題指示文となっています。選択肢では語彙選択の問題も多くあります。以上から、**それほど多くの文法事項が使われているわけではなく、構文もほとんどが「～は、～である」という単純な構文でできています** Point-3。

前述したテキスト「介護の言葉と漢字国家試験対策ウォーミングアップ」作成の際に国家試験で使われている文法事項も取り出してみました。結果、テキストにも提示していますが、国家試験の中の日本語文法は初級の基本文型約 100～110 の文法に 25 ぐらいの文法項目があれば理解できるとしています。

2．介護福祉士国家試験に必要な日本語力

留学生指導のポイント	
Point-1	**国家試験で使用される日本語が 100%理解できなくても、読めて、何が書かれているのか、何を聞かれているのか大体わかればよい。**
Point-2	**一つひとつの漢字の意味を理解し、わからない語彙があっても意味が類推できることが重要。**
Point-3	**読解力（わからない言葉があったときの意味の類推の仕方、文の意味がとれないときの類推の仕方等）をつけることが必要。国家試験の問題に近いものを活用し、多くの文を読んで読み慣れることが必要。**

（１）介護福祉士国家試験は日本語の試験ではない

前提として、介護福祉士国家試験は日本語の試験ではないという意識をしっかりもってほしいと思います。**試験問題に使われている日本語が 100%理解できなくても、読めて何が書かれているのか、何を聞かれているのかが、だいたいわかればよしとしたいところ**です Point-1。

では、国家試験の日本語がだいたいわかるためには何が必要でしょうか。それは類推力だと考えます。何について書いてあるのか、何が問われているのかを類推できる力を養っていく必要があります。

（２）類推力のために必要となる「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」

漢字学習は非漢字圏の学習者にとっては、日本語学習の中で困難なものの一つになっています。現行の国家試験では外国人は「ふりがな付き」の試験問題を選択できますが、ひらがなは読めても意味はわかりません。前述でも漢字語彙の理解の必要性は説明しましたが、そのためには一つひとつの漢字の意味を理解することが重要になります。一つひとつの漢字の意味が漢字語彙の意味になり、語彙の意味が文の意味になります。**わからない語彙があったとしても、漢字の意味がわかれば語彙の意味が類推できて、文の意味も類推できるようになります** Point-2。

国家試験だけを考えれば、漢字は書けるようになる必要はありません。読めて意味がわかればよいわけであり、究極は読めなくても、意味がわかればよいということになります。一つひとつの漢字の意味を理解することが、国家試験の日本語が理解できるようになる近道であると考えます。

（３）読解力

国家試験の内容を読みとる読解力についてです。まずは多くの文を読んで読み慣れることが必要です。**わからない言葉があったときの意味の類推の仕方、文の意味がわからないときの類推の仕方などを学習し、文意を読み取る練習をする必要があります** Point-3。日本語の文章であれば、どんなものでも読解力はつけられるかもしれませんが、**時間をとって勉強するのであれば、国家試験に近いものを使用するほうが効果的**です Point-3。EPA 候補者には、国家試験の事例文を使った読解教材「段階別事例問題読解」を提供しています。

３．介護専門学習をしながら、どう国家試験に対応できる日本語力をつけていくか



留学生指導のポイント

Point-1 **漢字語彙の類推力をつけるために漢字の語彙学習を行うことが重要。**

Point-2 **留学生にテキスト等を音読してもらうことで、教員は留学生の日本語力・理解力を測ることができ、留学生は自分が読めない、理解していないということに気づく、授業に集中するきっかけができる等のメリットがある。**

（１）漢字学習・漢字語彙学習

漢字の意味の理解が国家試験の日本語の理解につながるということは前述しました。多くの養成校で入学後、日本語学習の授業が組まれていると聞いています。そこでどのような日本語学習をしているかは定かではありませんが、**漢字に特化した学習を実施していないのであれば、是非加えてほしい**と思います Point-1。その際に注意したいのは、漢字学習といっても、読めること、書けること、漢字の書き順ではないということです。もちろん、上記のものが不要ということではありませんが、まず、**一つひとつの漢字の意味、そしてそこから漢字語彙の意味を類推する力を身につけることを指導していただきたい** Point-1 と思います。

もう一点、漢字学習で意識してほしいのは、漢字の訓読みです。漢字の熟語は読めても、使われている漢字の訓読みがわからない学習者が多くいます。「担当」はわかるが、「担う」はわからない。「補給」はわかるが、「補う」はわからない。「誤嚥」／「誤る」。「試験」／「試みる」などが挙げられます。「生」という漢字は「先生、生活」など、漢字としても言葉としても初級の段階で学習するのでよく知っているものですが、「生かす、生じる」を知らない学習者も多くみられます。介護の専門学習でも、国家試験でも、「生かす、生じる」はよくでてくる言葉です。漢字の訓読みは漢字の意味になっていることから、訓読みがわかることは、漢字語彙の意味の類推にもつながることを漢字指導の念頭に置いてほしいと思います。

次に専門学習の中での漢字と漢字語彙の学習について、少し述べておきましょう。

介護の専門学習の中でも、漢字の専門用語は限りなく多くあります。国家試験に向けての重要語彙になっているものです。授業の中で、専門用語の説明に漢字の意味から言葉の意味が理解できるということを加えると、漢字語彙の意味の類推力がついてくると思います。以下、漢字語彙から類推した例を挙げておきます。

図表：漢字語彙を類推した例

語彙	類推例
自己覚知（第 32 回）	「自」と「知」の漢字から、「自分を知ること」であると類推する
補足性（第 32 回）	「補」と「足」の漢字から、「足りないものを補うこと」であると類推する
経口摂取（第 33、34 回）	「口」と「取」の漢字から、「口から取る（食べる）」であると類推する
後遺症（第 34 回）	「後」と「症」の漢字から、「病気の後の症状」であると類推する

※第 32～34 回国家試験問題にも出題されているものは、（第 32 回、第 33 回、第 34）と記載しています

（２）音読の勧め

授業の中で学生にテキストなどを音読させることがありますか。音読は教員にも学習者にも有用だと考えます。**教員からすると、文を正しく区切れるか、漢字語彙が読めるかなどから、日本語力、理解力を測ることができます**。**学習者にしても、自分が読めない、理解していないということに気づく、授業に集中するきっかけができるという効果があります** Point-2。

重要なものは、覚えるまで音読してほしいと思います。先に EPA に提供している読解教材「段階別事例問題読解」を紹介しましたが、指導方法として問題を解き、内容を理解した後は、暗誦できるまで音読することを推奨しています。これにより、文中の専門用語を覚えることができます。また、多くの文を頭に入れることで、発話力、文章力にもつながります。音読、暗誦は小学生のようだと思われるかもしれませんが、案外効果のあるものです。

授業ごとに一文でもよいので、これだけは覚えたいというものを音読、暗誦することをお勧めします。

（３）国家試験の問題文の読み取り方

介護福祉士国家試験は日本語の試験ではありません。当然ながら介護の知識がなければ正答に至ることはできません。そして、国家試験で使用される日本語を 100%覚えることは難しく、まず、何が書いてあるか、何を聞いているかが、だいたいわかればよしとしましょう。以下、過去の国家試験問題の中から例を出しましたので、ご確認下さい。

① 漢字語彙の捉え方

漢字語彙の捉え方を理解しておけば、熟語等の意味がわからなくても、読み取れる場合があります。

図表：語彙の捉え方の例

語彙	読み取り方
配慮（第 32、33 回）	「慮」の意味を類推すると、漢字の中の「思」に注目すれば、「慮」は「思う」と考えられ、だいたいの意味はとれます
不慮	「慮」は「思う」で、「不」は「ない」ですから、「不慮」は「思わない」と考えます。よく使われる「不慮の事故」は「思わない事故」「思っていなでてきかった事故」と考えられます
閲覧	「覧」の意味を類推すると、漢字の中の「見」に注目すれば、「覧」は「見る」と考えられ、だいたいの意味はとれます
画一化（第 34 回）	「一」と「化」は知っています。「一つになる。一つにする」と考えます
挿入（第 32、33、34 回）	細かい意味はともかく、「入れる」という意味です
設置（第 32、33、34 回）	細かい意味はともかく「置く」という意味です
変容（第 33 回）	「変」から「変わる」と考えます
継続（第 33、34 回）	「続」から「続く」と考えます
傾眠傾向（第 33 回）	「眠」から「眠る」「眠っている」と考えます
減少傾向（第 34 回）	「少」から「少ない」と考えます
素早い･素早く（第 34 回）	「早」から「早い。早く」と考えます

※第 32～34 回国家試験問題にも出題されているものは、（第 32 回、第 33 回、第 34）と記載しています

② 頻出する言葉

国家試験に頻出する言葉は、おさえておくことが必要です。

図表：国家試験に頻出する言葉の例

語彙	読み取り方
控える	～しないようにする、もうすぐある
促す	～するように言う
勧める	～しましょう、～したほうがよいです、と言う
避ける	～しないようにする

③ 「する」と考えれば文意が取りやすい言葉

「行う」「営む」「図る」「講じる」「処する」「実践」「実行」「実施」「施行」などは、『する』と理解しておけば文意がとりやすいです。

④ 長い漢字の言葉の捉え方

法律、制度、病気の言葉には長い漢字の言葉が多くありますが、意味の捉え方を学習すれば、言葉の意味するところがわかりやすいものになります。以下のように、漢字は便利なものです。難しいと思わず、捉え方がわかれば容易なものになることを、学習者にも理解してほしいと思います。

図表：長い漢字の捉え方の例

ケース	読み取り方
２文字で区切るとわかりやすくなる場合	漢字語彙は 2 文字のものが圧倒的に多いですから、基本は 2 文字で区切ります。第 32 回の問題で誤答理由に挙げられていた「介護予防日常生活支援総合事業」を例にとると、きれいに 2 文字ずつに区切れます **「介護／予防／日常／生活／支援／総合／事業」** 区切った上で、一語一語の意味をとっていけば、全体の意味がわかります ⇨ **「介護を・予防すること・いつもの・生活をすることを・支援する・まとめた・仕事」**

属性を表す漢字が含まれている場合	以下の漢字は属性を表す漢字であることが多いので、一文字で区切ります **者―人** **所―場所** **病・症・疾患・炎―病気の名前** **剤―薬** **法―法律・方法** **費―かかるお金**　　などです。 **（例１）** 第 32 回の問題に問題 22．33．34 の事例文、85．103 と 5 回も登場した介護保険サービス「認知症対応型共同生活介護」を例にとります **「認知／症／対応／型／共同／生活／介護」** この場合は「症―病気」「型―タイプ・種類」を表します。認知症は区切る必要がないのですが、練習として考えてください 区切った上で、一語一語の意味をとっていけば、全体の意味がわかります ⇨ **「認知の・病気・に合わせる・タイプで・いっしょに・生活する・介護」** **（例２）** 第 34 回の問題で「筋萎縮性側索硬化症」を例にとります **「筋/萎縮/性/側索/硬化/症」** 「病・症・疾患・炎」は病気の名前だと考えます。病気の名前には、体の部分がどういう状態になるかということを表わしているものが多いですから、漢字からどんな病気かが類推できます 区切った上で、一語一語の意味をとっていけば、全体の意味がわかります ⇨ **「筋肉が・縮んでちいさくなった・状態で・脊髄の側面が・硬くなる・病気」** 同様に区切って考えると分かりやすくなる語彙に、同じく第 34 回の「乾燥性皮膚疾患」、「感染性腸炎」、「変形性膝関節症」があります。
小さい、多いなどの形容詞が含まれている場合	小さい、大きい、などの形容詞も 1 文字で区切ります **小、大、少、多**　などです。 介護保険サービスの名称「小規模多機能型居宅介護」を例にとります **「小／規模／多／機能／型／居宅／介護」** 「看護小規模多機能型居宅介護」は「複合型サービス」という名称でしたが、「複合型サービス」ではサービスの内容を推し量ることはできません。しかし、「看護小規模多機能型居宅介護」となると何をするサービスなのかが、文字を分けるとだいたいわかります

⑤ 文の捉え方

事例文、選択肢の中には、わからない言葉も多くあると思います。しかし、一つの言葉の意味がわからないからといって、文全体の意味がわからなくなるでしょうか。わからないことに捕らわれて、文意を見失ってしまうかもしれません。また、その言葉のために、問題が解けないでしょうか。わからない言葉があったら、その言葉を消してみてください。

第 32 回国家試験の問題 1 は事例問題ですが、使われている専門用語が難しく、理解できなかったとしてあがっていた語彙も多かったものです。その他、第 34 回国家試験の問題も数点例として挙げてみました。これらの問題から、理解できなかったとされた語彙を消してみましょう。加えて、学習者が知らないと思われるものをいくつか~~赤線で~~消しました。

図表：分の捉え方の例（実際の国家試験問題より）

問題	読み取り方
第 32 回　問題 1	A さん（78 歳、女性、要介護 3）は、訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用している。72 歳から~~人工透析~~を受けている。~~透析を~~始めた頃から死を意識するようになり、~~延命~~治療を選択する~~意志決定の~~計画書を作成していた。しかし、最近では、最期の時を自宅で静かに過ごしたいと思い、以前の計画~~のまま~~でよいか~~気持ちに迷いが出てきたので~~、訪問介護（ホームヘルプサービス）のサービス提供責任者に相談した。 サービス提供責任者の対応として、最も適切なものを一つ選びなさい。 1.「この計画書は、医療職が作成するものですよ」 2.「一度作成した計画書は、~~個人の意向で~~変更するのは難しいですよ」 3.「~~意思確認のための~~話合いは何度でもできますよ」 4.「~~そんなに~~心配なら、特別養護老人ホームに入所できますよ」 5.「この計画書は、在宅ではなく病院での治療~~を想定したもの~~ですよ」
第 33 回　問題 25	介護施設におけるプライバシーの保護として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。 1. ユニット型施設は~~個室化が推進されているため~~、各居室で食事をしてもらった。」 2. 個々の利用者の生活暦の情報を、~~ルールに従って~~介護職員で共有した。 3. 個人情報記録のファイルを、~~開覧しやすいように~~机の上に置いたままにした。 4. 着衣失行があるため、トイレのドアを開けたままで、排泄の介護を行った。 5. 家庭内の~~出来~~事や会話の内容は、~~情報に含まれないため~~記録しなかった。
第 34 回　問題 22	介護保険サービスの担当者会議に関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。 1. 会議の~~招~~集は介護支援専門員の職~~務~~である。 2. 利用者の自宅で~~開催~~することが義務~~づけられている~~。 3. 月 1 回以上~~の頻度で開催~~することが義務~~づけられている~~。 4. サービス提供者の~~実践~~力の~~向~~上を目的とする。 5. 利用者の氏名は匿名化される。
第 34 回　問題 33	利用者の家族から苦情があったときの上肢への報告に関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。 1. 苦情の内容について、~~時間をかけて~~口~~頭~~で報告した。 2. すぐに口~~頭~~で~~概要を~~報告してから、文~~書~~を作成して報告した。 3. ~~結論を伝えることを重視して、~~「いつもの苦情です。」とすぐに報告した。 4. 上司が忙しそうだったので、同僚に伝えた。 5. ~~自分の気持ちが落ち着いてから、~~翌日に報告した。

どうでしょうか。わからない言葉を消しても、おおよその意味がとれたのではないでしょうか。ただし、正答が選べるかどうかは介護の知識をいかに習得しているかによります。

４．まとめ：「国家試験で使用される日本語を理解する」とは

一般社団法人 国際交流＆日本語支援Ｙ　橋本由紀江（第Ⅲ章　監修）

EPA 介護福祉士候補者に対して、国家試験対策指導を 10 年余やってまいりました。国家試験に臨む彼らに少々乱暴ではありますが、心構えとして、以下の言葉を伝えています。

「わかること、知っていることから考えよう！わからないものは消しちゃおう！」

介護福祉士国家試験に合格するために最も必要なのは、日本語ではなく、介護専門の知識です。介護福祉士資格取得のための学習は、内容も多く、日本語がまだまだの外国人にとって、負担は大きいと思います。日本語の面で、できるだけ苦労しなくてもよいようにと考えてきました。今回の内容が、留学生の指導のヒントになれば幸いです。

巻末参照編. 令和元年度国家試験　誤回答の分析

１．本資料の概要

国家資格取得に向けた試験合格のためには、過去問に挑戦するなど、その傾向に慣れることが必要です。なかでも、**日本人にとっては容易に理解できそうなことも、留学生にとっては理解が難しい**という場合があります。

当協会では、全国にある養成校 53 校から 2 年次の留学生約 410 名の協力を得て、令和 2 年 10 月、試行試験（内容は第 32 回介護福祉士国家試験）を実施することができました。実施方法は、各養成校のスケジュールによって、午前・午後それぞれの問題を別日で、あるいは、領域ごとに日を跨いで実施するなど方法はさまざまでした。

ご協力いただいた養成校には、試行試験実施ののち、採点結果の振り返り時間を設けてもらい、各教員による留学生への聞き取り調査を行っていただきました。そのうち 9 校では、母国語記載の試験問題にも留学生に目を通してもらい、母国語ならわかる、あるいは、わからないなどの意見を出してくれました。本資料は、それらの内容を整理したものです。

各養成校におかれましては、模擬試験実施後の誤回答理由分析を行う際、**「留学生はどのようなポイントで問題を間違えやすいのか」その傾向を理解していただくために、本資料を活用いただき、指導の一助**にしていただければと思います。

２．本資料の活用方法

（１）はじめに

本資料の構成は、以下の①②の二部構成となっています。それぞれ、第 32 回国家試験問題と一緒に読み合わせることを前提に作成しました。

① 介護の知識及び日本文化など関する誤回答理由（第 1 問～第 125 問）：P48～P64
② 日本語に関する誤回答の理由（第 1 問～第 125 問）：P65～P81

一つの問題の誤回答理由を知るためには、①と②それぞれを見ていく必要があります。そうすることで、介護に関わる知識不足による誤答か、あるいは、日本語能力の問題による誤答か、どちらの要因がより大きいのかを確認することができます。

以下、具体的に、本資料の読み方を説明します。

【具体例】第 32 回　介護福祉士国家試験問題より

問 14.

自閉症（autism）の E さん（22 歳、男性、障害支援区分５）は、就労支援施設に通所している。こだわりが強く、毎月購入している雑誌を処分するとパニックになってしまう。

「障害者虐待防止法」の視点を踏まえて、E さんの気持ちが安定するように、施設の介護福祉職が E さんにかける言葉として、最も適切なものを１つ選びなさい。

1.「決まりですから捨てますよ」
2.「読みたい雑誌はとっておきましょう」
3.「古紙として再生利用しますからね」
4.「E さんにこの雑誌をあげるわけにはいかないんですよ」
5.「次の新しい雑誌がきますよ」

正答：2

この問題を、本資料と照合させると、以下のようになります。

① 介護の知識及び日本文化に関する誤回答理由より（P50）

領域：人間と社会　科目：社会の理解　正答率：55%（2 年次 10 月時点）№：問題番号

領域	科目	正答率	No.	学習課題	誤選択No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの） 誤答理由
人間と社会	社会の理解	55%	14	**「自閉症」「障害者虐待防止法」**	―	自閉症者に対する声掛け方法の知識不足/どうすれば（自閉症者へ）対応できるかわからない/利用者を中心に考えることの理解不足/自閉症に対しての支援技術の知識不足/自閉症の対応と認知症の対応が同じになっている/文章は理解できていたが、純粋に間違えていた/自分の考えで答えた/**２つの選択肢で迷った**/選択肢３「古紙として再利用しますからね」という声かけがわからない(リサイクルの仕組みがわからない)

教員が知識・理解不足と考えた項目をキーワード化。この問題では、「自閉症」と「障害者虐待防止法」について、より丁寧な指導が求められます。

※ 複数回答あったものは**太字**にしています

誤選択№.：自明な誤選択№.とそれ以外「－」

「2 つの選択肢で迷った」との声が複数、寄せられました。ほかに、自閉症のこと、認知症との違い、リサイクルの仕組みがわからない（＝日本文化や社会への理解不足）といった理由が挙げられました。

一方、同じ問題を、②日本語に関する誤回答理由から読み取ると、

② 日本語に関する誤回答理由より（P66）

領域：人間と社会　科目：社会の理解　正答率：55%（2 年次 10 月時点）№：問題番号

この問題では、設問文の 8 語がわからないとの結果になりました。一方、選択肢で不明とした留学生はいません。

※　複数回答あったものは**太字**にしています。

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文　含む）	選択肢 1～5	
人間と社会	社会の理解	55%	14	「障害支援区分」「就労支援施設」 **「こだわり」「処分」「パニック」** 「購入している雑誌」「介護福祉職」 「障害者虐待防止法」		選択肢 2.「とっておきましょう」を「取る」と解釈した/事例の状況がわからない/問題文を読んで、その意味を理解することができなかった/混乱して、日本語の問題だと思った/問題文が正しく理解できていない/日本語の意図がつかめない/日本語の理解不足/使用語彙が分からない/**意味が分からない/**話し言葉は理解しづらかった.例えば、選択肢５．「雑誌がきますよ」の「きますよ」という言葉に引っかかった/言葉かけの言い回しが理解できなかった/日本語での答え方わからない/日本語の話ことばが母国語だとわかりやすかった/ベトナム語で意味がわからなかった

この問題では、「意味がわからない」という声が複数でした。その理由として、事例の状況や選択肢の文章表現が理解しづらいなど、複合的な要因が重なっていることがわかります。解説時間を長めに設定し、設問文・選択肢いずれも、丁寧な指導内容が求められます。

本資料は、聞き取り調査の内容全てを、読みやすく整理したものです。
そのため、同じ誤回答理由のなかには、『全くわからない/文章問題は読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた』（P60　問題 85.）のように、全然わからないという声の一方で、得意だとする真逆の声も、全て一つに収めています。あらかじめ、ご留意ください。

また、125 問全ての記述を一度に読んでいただくことはもちろん、領域や科目ごとに読んだり、選択肢が「言葉かけ」になっている設問だけ抜き出したりするなど分析の方法は、いくつか考えられます。国試対策担当の教員の皆様におかれましては、同じ問題を取り上げる際の教案作成時に、事前の検討材料にしていただきたいと思います。

最後に、調査にご協力いただいた養成校 53 校及び 400 名を超える留学生の皆さんに、貴重な時間を割いていただいたこと、心より感謝申し上げます。留学生らの「わからない」が「わかる！」の声になるよう、本資料が活用されることを願っております。

（２）誤回答の特徴（詳細記載版）

① 介護の知識及び日本文化などに関する誤回答の理由

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
人間と社会	尊厳	69%	1	・ **サービス提供責任者の役割** ・ （社会的）養護	1	設問文にある延命治療という言葉から、「医療職」につなげて考えてしまった/計画書は「医療職」が作成するものだという思い込み/延命治療の計画書を利用者が作成できないと考えた
				・ （延命治療を選択する意思決定の）計画書	4	困っている＝自分たちの働いている（アルバイト先）の施設に入ると安心できるのでは？と思った
		61%	2	・ 権利擁護	－	「代弁」は知っている言葉だったが、「アドボカシー」につながらなかった/意思を代弁・・・聞いたことはあるが忘れた/勉強したが忘れてしまった
	人間	48%	3	・ **自己覚知** ・ コミュニケーション ・ ラポール形成など介護の基本的視点	5	選択肢５「自己の価値観を他者に合わせる」だと思った/自己覚知のことはわかったが、正答№２と５（誤答）で迷った
					－	自己覚知の意味がわからなかった/純粋に自己覚知に対する知識がなかった/自己覚知の意味を深くわからなかった/勉強したが忘れてしまった/言葉の意味はわかっていた/「洞察」等意味がわかっても知識がない
	社会の理解	83%	4	・ 高齢者との**コミュニケーション**の配慮	5	選択肢５「たくさんの人がいる、にぎやかな場所で話す」と正答の選択肢１とで悩んだ
					4	「配慮」することを考え、「表情があまり見えない」選択肢４を選択した
					－	実習先での対応を連想できるため理解しやすい
		50%	5	・ **地域包括ケアシステム** ・ **自助・互助・共助・公助** ・ 地域福祉 ・ **日本の法律、（福祉）制度**	－	「社会保障制度」の意味がわからない/公的扶助の理解ができていなかった/「公助」と「共助」の違いがわからなかった/「互助」と「共助」の違いがわからなかった/「共助」は近所の助け合いと覚えていたため(原文のまま）、社会保障制度に含まれないと思った
		66%	6	・ **働き方改革** ・ 日本の労働環境	－	「働き方改革」という言葉は知っていたが、試験勉強ではしていなかった/日本の働き方改革が理解できない/「働き方改革」について勉強をしていなかった/ベトナムでは働きたい時に働くという考え方のため時間に縛られるという考え方がわからない/働き方を含めた働くイメージがつかめなかった/「働き方改革」の施策を知らなかった/紛らわしかった
		57%	7	・ **介護保険制度** ・ **福祉事務所の役割** ・ **生活相談員の業務内容** ・ 年金 ・ 生活保護	１もしくは２	お金がないなら、サービスを使わなければよいと思った/選択肢の文に「中止」と書いていたから/「金銭厳しい→相談する」がつながらなかった/サビ担会議で Ｂさんのやめたい気持ちを伝えると思った/相談事だったため、ケアマネジャーが関係した選択肢が正解だと思った/利用者の困難の解決先は、ケアマネジャーだと思った/「C 生活相談員の対応として」を読み落としていて、選択肢にあるケアマネジャーがすることと勝手に解釈してしまった/自分の考えで答えた

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
人間と社会	社会の理解	35%	8	・ 日本の社会保障制度 ・ **社会保障財政** ・ 後期高齢者医療制度	－	社会保障の財源の整理と使用先が複雑で理解できない/自分の生活に関係のないことには興味が沸かず、理解が進まない/社会保障の細かなところまで覚えきれていない/社会保障について全く知識がなかった/制度について想像・理解ができなかった/給付額、対象について把握していない/国の一般会計予算の理解ができなかった/データを勉強したことがなく、知識が不足していた/年号が出てくると苦手
		64%	9	・ **介護保険制度の知識**	4	「第一号被保険者の保険料は、都道府県が徴収する」だと思った
					－	言葉は理解できていたが、介護保険制度の被保険者の要件について理解することができていなかった/第二号被保険者の年齢を勘違いしていた/被保険者に関する正確な理解不足/被保険者と保険者を勘違いしている/「医療保険」と「年金」を混同した/紛らわしかった/覚えることが多くて、きちんとした知識になっていない
		34%	10	・ **介護予防・日常生活支援総合事業**に含まれるサービス内容 ・ 介護予防 ・ 日本の福祉制度	－	要支援者の総合事業という範囲が理解できない/「障害者総合支援法」と「総合事業」が混同されており、わからない/介護保険の介護給付と予防給付の違いがわからない/選択肢 1.「家族介護支援事業」は、介護予防・日常生活支援総合事業ではなく、地域支援事業のなかの任意事業であるが、「任意事業」という意味がわからない
		27%	11	・ **障害福祉計画」** ・ 障害者総合支援法 ・ 都道府県・市町村の役割	－	「障害福祉計画」の実施義務自治体がわからなかった/障害者制度のイメージを理解させることは困難/勉強したってことは覚えていたが内容は忘れていた/幅広い知識は難しい/定義、共生社会の在り方　差別といった文言に文化の違いを感じている/市町村、都道府県、厚生労働省（大臣）の大きさの違いがわからない
		36%	12	・ 日本の福祉制度 ・ **障害者総合支援法の内容** ・ **障害福祉制度** ・ **障害福祉サービスの利用手続き**	－	障害者総合支援法の内容やサービスの流れなどすべてがわからない/障害福祉サービスを受けるための条件や手順がわからない/障害者総合支援法の最初の手続きがどこか、市町村？地域包括支援センター？/誰に申し立てを行いどこが申請窓口になるか程度の理解はできているにも関わらず、文章化されると理解できなくなる/地域包括支援センターの業務がわからない（まずは何でも包括という理解）/介護保険法と混同してしまう
		28%	13	・ **共生型サービス**	2	共生型サービスということで同じような意味として「共同」がついている選択肢 2.「共同生活援助（グループホーム）」を選んだ
					－	サービスの内容や、**創設された年月日は覚えにくい**/介護保険と障害福祉サービスの相対するサービスの知識不足/2018 年に創設された共生型サービスの対象となるサービスを理解することができていなかった//現行のサービス移行後のサービス等幅が広く、理解しがたい/共生型サービスの対象を覚えていない/マークシートの場所を間違えた

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
人間と社会	社会の理解	55%	14	・ **自閉症** ・ **障害者虐待防止法**	–	自閉症者に対する声掛け方法の知識不足/どうすれば（自閉症者へ）対応できるかわからない/利用者を中心に考えることの理解不足/自閉症に対しての支援技術の知識不足/自閉症の対応と認知症の対応が同じになっている/文章は理解できていたが、純粋に間違えていた/自分の考えで答えた/**2 つの選択肢で迷った**/選択肢 3.「古紙として再利用しますからね」という声かけがわからない(リサイクルの仕組みがわからない)
		37%	15	・ **成年後見制度**に関する**統計**資料	–	成年後見制度に関する単語は知ったが内容はわからない/「補助」「保佐」「後見」がわからない/任意後見制度と法定後見制度の違いは理解できていた/成年後見制度の大枠はわかるが具体的な概要についてわかりづらい/制度の理解が十分でない/統計等の最新データの知識不足/**家庭裁判所がわからない**/2 つの選択肢で迷った/答えに自信が無かった
		20%	16	・ **生活保護法** ・ 日本の福祉制度	–	生活保護について単語は知っていたが内容はわからない/問題の意味がわからなかった/**補足性の原理は学んだ記憶はない**/生活保護法の資産の活用能力の活用の知識不足/生活保護法の原理・原則の具体的な内容が理解できていない/憲法 25 条の生存権に関しての知識不足/法律の名前は覚えにくい/迷って違うのを選んでしまう
介護	介護の基本	69%	17	・ 中等度の認知症 ・ 訪問介護員の対応 ・ 介護の基本	–	後になって読み返すと正解がわかっているので、試験で解いている時に焦りなどで誤ったのではないかと思う/生活の継続性についての理解不足（可能な限り、在宅生活を継続できるような支援方法）/日本語の解釈ができないことで、助言の言葉かけが、選択肢 5.「新しいコーヒーメーカーを買ってはどうですか」以外はどれも適切と思った
		66%	18	・ 脳卒中 ・ ノーマライゼーション	1	（設問文中に）「長い髪をセットしてもらい」という文があるので、選択肢 1「洗髪しやすいように」を選んだ
					5	片麻痺があれば、安全のために車いすを使用すると思った
					–	「ノーマライゼーションの考え方を踏まえて」を読み損ねた/俳句教室を知らない/俳句教室の意味がわからない/意味はわかるが正解を探せない/選択肢 3.と 4.で迷った
		41%	19	・ ICF の構成要素	4 もしくは 5	**ICF について、まだ理解が不足している**/ICF の構成要素を十分に覚えていなかった/**ICF の環境因子と心身機能の知識不足**/ＩＣＦは難しい/「環境因子と心身機能の関連を表す」という記述に戸惑う/考えにくい/理解できたが間違えた、環境因子、心身機能意味わからない/具体的な内容（実際の内容）を ICF に分類することが難しい/ICF はわかっていたが、適切なものを選ぶことができなかった/意味はわかるが正解を探せない/純粋にミス/**選択肢 4.と 5.で迷った**/**２つの選択肢で迷った**/マークシートの塗る場所を間違えた

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	介護の基本	68%	20	・ アルツハイマー型認知症 ・ **利用者主体の視点**	1 もしくは 4	選択肢 1.（正答）と 4.とで迷ったが、4.の方が適切だと思った（選択肢 4.「整理整頓のため、（中略）掃除機を押し入れに片づけた）
					2	「手ぬぐい」より「バスタオル」の方が良いと思った
		68%	20		–	認知症の生活環境への配慮について理解ができていなかった/「利用者主体の対応」を行っていることが理解できない/利用者への受容に関する認識不足/**選択肢 1.「畳で布団の使用」がイメージできなかった**/布団を使って寝ること（ベッドを使わないこと）の意味がわからなかった/意味はわかるが正解を探せない/問題はイメージできた/**2 つの選択肢で迷った**
		45%	21	・ **高齢社会白書の最新データ**	3	**風呂場が最も事故が多いと思っていた**/事故＝転倒と思い、転倒が多い場所は浴室だと思った/事故発生の頻度において、危険と思いやすいところと考えたようである
					–	意味はわかるが、正解を探せない/日本の家庭環境（住環境）への理解不足
		42%	22	・ **認知症対応型共同生活介護（グループホーム）での介護** ・ 介護の基本	3	選択肢 3「現在よりも過去の身体的・精神的状態の把握が優先される」ことが必要だと思った
					–	サービス・種別の理解ができない/グループホームは理解できるが、正答は理解できない
		41%	23	・ 訪問介護事業所 **サービス提供責任者の役割**	–	「責任者＝上の立場の人」はわかった/介護職の職務内容についての知識不足/それぞれの役割を区別できていない/ケアマネの業務や社会福祉協議会の業務の知識不足/「施設」のことは理解しているが「訪問介護」がわからない/訪問介護に関する知識不足/居宅サービス計画書をもとに訪問介護計画書を作成するという流れを理解していなかった/**サービス計画書の事をあいまいにわかっている**/居宅サービス計画を作成する人（職種）が理解できない/ケアプラン、個別介護計画書に関する知識不足
		51%	24	・ **多職種連携** ・ **民生委員の役割**	–	利用者主体の視点が理解できていない/解答に悩んだ
		70%	25	・ **介護福祉職の倫理**	1	選択肢 1.「利用者の要望を優先すること」が 1 番適切だと思った/選択肢 1.か 3.（正答）か答えに迷った
					5	選択肢 5.「施設の廊下で職員同士が打ち合わせを行うこと」が倫理に反することの意味がわからない
		60%	26	・ MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）	1	アルバイト先の施設がグループホームで小規模の為、入所者全員の保菌の有無を調べることは容易だと考えた
					–	ブドウ球菌について勉強したが、その特徴は覚えられない/**接触感染に対する知識不足**/「スタンダードプリコーション」（標準予防策）の意味がわからなかった/知識として知らない

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	コミュニケーション	27%	27	・ カウンセリング技法 ・ コミュニケーション技術	2	選択肢 2.「うなづきやあいづち」が必要だと思った。
					–	「直面化」という手法が普段の受容的な関りと違うため誤解していた/選択肢のなかに、「指摘する」という言葉があったので、選択肢 1.（正答）を避けてしまった/日本人なら漢字の意味を想像して解釈できる/共感が根底にあるが，ただ無防備な共感とは違うという知識の不足/「共感」と勘違いしていた/紛らわしかった/ 「直面化」という言葉は勉強していたが、適切な答えを選択できなかった/授業で習ったはずが、憶えてないと…勉強不足/1.か 5.か答えに迷った/**2 つの選択肢で迷った**
		61%	28	・ **意欲が低下した人とのコミュニケーションの基本**	–	介護福祉職が行うアセスメントの意義がわからない/近い答えが多くて選べない/2 つの選択肢で迷った
		41%	29	・ **構音障害のある人への対応**	–	「構音障害」と「失語症」の区別がつけることができない/勉強したが忘れてしまった/全体的に、選択肢の文章が間違いやすい/正答選択肢 2「聞き取れないところを再度言ってもらう」ことは相手にとって不快なのではないかと考えた/**2 つの選択肢で迷った**
		67%	30	・ **視覚障害者**	4	設問文「視覚障害者」はわかっていたが、選択肢 4.にある「控える」の言葉の意味を良い意味としてとらえてしまい、誤回答を選択した
					–	**視覚障害者とのコミュニケーション方法がわからない**
		48%	31	・ 知的障害を伴う自閉症 ・ 利用者への受容	5	理由を尋ねる方がよいと考えた/理由を明らかにすることを主として考えた
					–	**どれが正しい言葉かけなのか、わからない/**就労継続支援事業所へ実習に行った学生以外はわからない/自閉症の特徴とふさわしくない声かけとの結び付けが難しかった/どの対応も間違えではないのではと考えた/違いがあまりわからない/先に話した方が良いと経験から選択肢を選んだ（→どの選択肢を選んだかは不明）**/選択肢 4.(正答）と 5.（誤答）で迷った**
		65%	32	・ 家族介護者への対応 ・ 利用者主体の視点	–	2 つの選択肢で迷った
		69%	33	・ 認知症者への対応方法 ・ コミュニケーション	–	グループホームに入居している方の居室を訪問した時の対応についての知識不足/意味はわかるが、難しい/単純に間違えてしまった/集中力が切れていた
		53%	34	・ 介護記録の方法	3	実際の介護記録にはそのように記入すると考えた
					–	記録方法がわからない/**客観的事実を表す介護記録がわからなかった**/客観的事実の内容の理解不足/「客観的」と「主観的」がはっきり区別できない/客観的事実の意味を間違えていた

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	生活支援技術	52%	35	・ **地震対策**	1	「（家具には）キャスターをつけること」が大事だと思った
					4 もしくは 5	選択肢 4.「外への避難経路は、玄関の 1 方向とする」と選択肢 5.（正答）で悩んだ
					–	災害に対するイメージが湧かないため、設問全体がイメージしづらかった/ニュースなどで知らない（原文のまま）/**緊急時のイメージが日本の生活環境の理解不足で答えられなかった**/地震という災害への備えをする文化がないため/地震災害の経験がないので、災害時の対応が良く理解できない/施設での介護の経験はあるが、居住になるとわからなくなる/問題の意味がわからなかった
		37%	36	・ **介護保険の給付対象**となる**住宅改修**	4	選択肢 4.「手すりを設置できる」という部分が正答だと思った/「取り外し可能」は（介護保険の給付）対象にならないことを知らなかった
		37%	36		–	**「住宅改修」という意味をしっかり理解できていれば、正解できたかもしれない**/住宅改修の具体的な改修工事や内容がわからない/住宅改修時の介護福祉職が助言できる内容を知らなかった/介護保険の内容を理解できていない/介護保険の給付の詳細について勉強しなければならない/(正答選択肢 3.）「滑りにくい床材」に変更できないと思っていた/勉強したが忘れました/和式修繕の上に腰掛便座・腰かけ便座・取り外し可能な手すり→日本の習慣に関連していることから、イメージしづらいのでは/質問の内容が理解できていない
		52%	37	・ **ユニバーサルデザイン 7 原則**	–	ユニバーサルデザインの概念がわからない/ユニバーサルデザインの具体的な内容が日本語でわからない/7 原則、忘れた/その他関連する用語との違いについて理解不足
		53%	38	・ **高次脳機能障害**の**着衣介助の方法**	3	選択肢 3.「着衣の前に全ての手順を口頭でいうこと」がなぜ悪いかわからない
					–	高次脳機能障害の意味、特徴、症状がわからない/高次脳機能障害の身体的状態を理解していなかった/失行のある利用者への対応/**着衣失行に関する知識不足**/失行の症状がある方に対する介助についての知識不足/失行、高次脳がわからない/生活支援と障害についての理解/正答選択肢 2.「衣類に印をつける」は間違いだと思った
		53%	39	・ **更衣介助**	–	手指の細かな動作が難しい利用者に対する更衣介助の理解不足/更衣に関する物品の知識不足/福祉用具の知識がない/ボタンエイド・ソックスエイドの知識不足/日常的にボタンやデザインの言葉を知る機会がない/2 つの選択肢で迷った
		57%	40	・ **身じたくの介助**	5	アルバイトの施設で PT がよくいろいろなものを直しているので、選択肢 5「理学療法士は、身体状況に合わせて衣類を作り直す」と混乱した
					–	**専門職それぞれの役割の把握・理解不足/介護老人保健施設の専門職役割の知識不足**/多職種での業務や他職種への理解不足、うろ覚え/糖尿病の知識不足/医行為に関する知識不足/選択肢 2.「支援相談員」を、勝手に介護職の人だと思った/（選択肢 4.に関連して）爪切りは介護士がしてもいいと思ったが、よく読むと「糖尿病」と書いてあった（ので、選択肢 4.が正答）

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	生活支援技術	69%	41	・ **移乗介助の手順**	–	ベッドから車いすへの移乗の介助の知識不足/介助の順番を間違えた/問題文を誤って解釈していた/移乗介護の流れが文章になると整理できなかった/勉強したが忘れた
		55%	42	・ **重心線と図解**	–	**重心について考えていない/設問文をイメージすることができなかった**/思考的判断不足/身体の移動の意味を勘違いしていた/勉強したが忘れた/誤答選択肢 1.と正答選択肢 2.で悩んだ
		58%	43	・ **麻痺のある方**への**階段昇降**の**手順**	–	階段昇降時の介護に対する知識・理解不足/階段昇降の「杖歩行」は理解できていたが、「手すり（を利用して）」になったことで答えがわからなくなった/正答選択肢 4.「利用者の右前方に立つ」は邪魔だと思った/右片麻痺に関する知識不足/**階段を下りるときの足の出し方を間違って覚えていた**/右側（麻痺側）に立つことはわかったが、前方か後方かはわからなかった/複雑で理解できていない/階段昇降の問題は紛らわしく混乱する/昇降のかんちがい/動き方を忘れていた/勉強したが忘れた
		33%	44	・ **バランスガイド** ・ **日本の食事**	–	食事や栄養に関する知識・理解不足/体格指数（BMI)、栄養に関する知識不足/体重が減少した方に対して必要な食事に関する知識不足/タンパク質が主菜にあるという理解不足/主菜と副菜の区別がついていなかった/主食・副菜・主菜の食文化の理解不足/日本食の名前はわからない/**お茶漬けを知らない**/お茶漬けやうどんを知っているが、日本の主食だと思っている/問題文を理解することができたが、正しい答えを選択できなかった/勉強したが忘れた
		63%	45	・ **食事の姿勢**	–	椅子に座って食事をする利用者の姿勢に関する知識・理解不足/勉強したが忘れた/知識が無かった/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった
		55%	46	・ **疾患名**とその**栄養面**からみた**予防**	5	選択肢 5「逆流性食道炎の予防として、食後すぐ横になる」→食べて横になることはよいことである（ネパール）
					–	高齢者の食生活に関する知識不足/**高齢者の食生活への助言、わからなかった**/骨粗鬆症、ドライマウス、逆流性食道炎に関する知識不足/いずれも、正確に理解できていない/ビタミン D に関する知識不足/2 つの選択肢で迷った/勉強したが忘れた
		52%	47	・ **半側空間無視の方**の**食事介助**	2	半側空間無視は理解しているが、右を意識させたかったから選択肢 2「トレーの右側に印をつける」にした
					–	半側空間無視のある利用者への介護に関する知識・理解不足/半側空間無視の利用者への食事介助をイメージするのが難しかった/障害に応じた介護についての理解不足/**集中力が低下**して、問題文をしっかり読んでなかった
		40%	48	・ **清拭**の**手順**	5	選択肢 5.「皮膚についた水分は最後にまとめて拭く」が正解だと思った
					–	このような身体援助に係る問題の正答率は高い（この学校での正答率は 80%）/施設で実際にやっていることと違う/勉強したが、忘れた/よく読まなかった/マークシート記入間違え/集中力がきれた

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	生活支援技術	60%	49	・ 利用者の状態に応じた入浴の介護	2	3.（正解）だと思ったけど、2.を回答した
					–	選択肢にある障害や病名の内容がわからなかった/選択肢に複数の状態と介助方法が出てきたため、正しく結びつけることが難しかった
		58%	50	・ **ポータブルトイレ**に関する**支援**	1	施設では、選択肢 1.の「A の場所」に設置している
					–	**ベッドサイドでのポータブルトイレの位置について理解が不足している/片麻痺のある利用者の介護に関する理解不足**/文章とイラストを見て、左右を考えるのが難しかった/健側に移動した方が良いと考えて判断している/身体援助の正答率は高い（この学校での正答率 82.8%）
		62%	51	・ 膀胱留置**カテーテル**」「**採尿バッグ**の**取り扱い**	5	なんでも看護師にやってもらった方が良いと思っている（選択肢 5「尿量の確認は看護師に依頼する」）
		58%	52	・ 座薬	–	**解熱を目的とした座薬の挿入について知らなかった**/腹式呼吸への知識不足/問題は理解できるが、選択を間違った
		31%	53	・ **食中毒**の**原因菌**	–	**出題された菌の名称を覚えていない/菌の名前がはじめて聞いたものばかり**/「翌日も食べるのなら問題ない」と考えて、答えがわからなかった/勉強したが忘れた/ひとつひとつわかっていなかった/問題は理解できるが、選択を間違った
		58%	54	・ **ノロウィルス**	–	嘔吐物の処理に関する知識不足/感染症対策の対応方法を理解できていなかった/医療的ケアで習ったが、間違えた/ノロウィルスの知識あり、職場で対応したことがある/選択肢を絞るのが難しかった
		36%	55	・ **消費者問題**	–	**消費生活センターが身近ではないため選べなかった/消費生活センターの存在を知らない/選択肢の専門機関（行政書士　家庭裁判所　保健所　相談支援事業所）とその役割がわからなかった**/サービス提供責任者について知らなかった/**クーリング・オフを知らない**/「物品売買契約書」や「消費者の制度」が理解できていない/日本の相談する相手が状況によって変わることがわからない/手続きの相手がわからない/母国語に行政書士や家庭裁判所などの言葉はない/答えを迷った/ネットでも上手く調べることができず、諦めてしまう/覚えていなかった
		50%	56	・ **不眠**	4	アルバイト先ではお茶は健康に良いと聞いていたのでお茶が正解だと思った/ベトナムはお茶を飲んで、寝る習慣がある/温かいお茶ならいいと思った/温かいお茶はリラックスできる/茶葉にこだわらず、飲んでいいものだと思った/昼寝、緑茶の生活習慣/お茶の違いがわからなかった
					–	「体内時計」「メラトニン」「視床下部」に関連する知識不足/眠れないと訴える高齢者への助言、わからなかった/後になって読み返すと正解がわかっているので試験で解いている時に焦りなどで誤ったのではないかと思う/勉強したが忘れた/正しい対応の仕方を間違えて選んだ/選択肢を絞るのが難しかった/問題が難しかった/日本文化の理解不足

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	介護支援技術	41%	57	・ **安眠を促す環境**	2	選択肢 2「身体に密着した形を選ぶ」のが大事だと思った
					3	選択肢 3「冷暖房の風が体にあたる」ことが良いと思った
					–	生活支援技術の環境調整の知識不足/**適切な湿度が何%かわからない**/「環境を整える」がわからなかった/勘違いをした/問題が難しかった/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった/職場では（利用者が）よく眠れている。自分たちの声や足音が雑音だとは思っていない
		50%	58	・ **服薬（睡眠薬）**	2	選択肢 2.「服用後、一時間起きていてもらう」のは、副作用があるかみたいからだと思った
					–	服薬判断に関する知識不足/不眠の状況（睡眠薬を服用する高齢者）に対する職員としての「適切な対応」がわからなかった/正答の選択肢 3.「医師への報告」は医療職が行うと理解している/答えがわからなかった/勘違いをした/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった/2 つの選択肢で迷った
		56%	59	・ **ターミナルケア**	3	呼吸が苦しいなら、選択肢 3.「痰の吸引」したら良いと思った/呼吸を楽にする方法が適切だと思った
					5	呼吸できなくなると不安なので、選択肢 5.「すぐに救急車」を呼んだほうがいい
					–	終末期の身体的特徴（死前喘鳴）に関する知識不足/家族介護者への声かけの仕方がわからない/勉強したが忘れた/1.と 4.で悩んだが、日本語の捉え方を間違えた/2 つの選択肢で迷った/答えを迷った
		59%	60	・ **ペースメーカー** ・ **死亡後の介護」**	1	選択肢の専門用語がわからず「ペースメーカー」は単語として意味はわかったので、多分これが正答だと思った
					2	施設では看護師が、選択肢 2.「口が閉じない場合は紐で顎を固定する」を実施していたので、そうだと思った
					–	**介護職が行う死亡後の介護について知らなかった**/死亡後にも介護がいるのか不明だった/死亡直後は家族が悲しんでいるから、介護を一緒に行うことを確認するのはできないと思った(←正答選択肢 5.）/死んだ後、介護福祉士と家族は一緒に葬式ができると思った/問題が難しかった/集中できなかった/死後の処置についての文化/日本の文化が関係しているのではないかと思い、難しく考えてしまった
	介護過程	68%	61	・ **介護過程の目的**	5	選択肢 5.「利用者の生活習慣を改善する」ことは、QOL 向上だと思ったので、これにした
		56%	62	・ **介護計画**の作成	–	**介護計画が何かわからなかった**/介護過程の作成に対する理解不足/介護記録の書き方と混同した/選択肢 5.「計画の見直し」とは「評価」と解釈してよいのかわからなかった/問題が難しかった
		53%	63	・ **介護計画の実施**	–	**介護計画が何かわからなかった**

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
介護	介護過程	57%	64	・ **介護過程の展開の基礎**	4	介護職員が行う介護過程の意義よりも、医療職のような視点に立ってしまっていた（選択肢 4.「尿失禁に対応する介護計画の実施を優先する」を選んだ）
					–	脳梗塞に関する知識不足/再アセスメントすることは間違っていると思った（→正答選択肢 2.）/勉強したが忘れた
		42%	65	・ **介護過程の展開の基礎」** ・ **短期目標**	4	**事例文（「レクには積極的に参加するなど意欲」）に惑わされて、選択肢 4.「意欲的に歩行訓練に取り組む」を選んでしまった/4.と 5.で迷った**
					–	短期目標のレベルが読み取り切れなかった/短期目標、長期目標の理解不足/長期目標と短期目標を混同した/事例の方の短期目標を正しく選べなかった/介護過程の展開は、「自立支援と思い」を ICF から読み取るが、短期目標に課題とした思考を持つ傾向がある/優先順位の考え方が誤った/なぜ、高齢者を手助けすることがいけないのか？（過剰介護）/**選択肢で迷った**/よく読めばわかった/勉強したが忘れた
		60%	66	・ 介護過程の展開の基礎	–	**高校野球（部活動と甲子園）や体育の授業など文化の知識不足**/部活の先生と体育の先生は違う/某留学生の国では、高校生になると、体育の授業が殆どない/部活のイメージもなく、高校野球に対する思いを理解することは難しい/中国では体育の授業が少ない/事例文「学生を全国大会に連れていけなかったのは私の責任だ」→日本人の責任に関する意識はわかりにくい/時間足りなかった/答えがわからなかった/問題の内容がわからない/2 つの選択肢で迷った/記入もれ
		50%	67	・ **介護過程**	1 もしくは 3	選択肢 1.と選択肢 3.（正答）で迷った（言葉は理解している）/選択肢 1.と選択肢 3.で迷ったが、選択肢 1.（体操に対する関心を取り戻す）のほうが正答だと思った/選択肢 1.と選択肢 3.で悩む者が多かった
					2	選択肢 2「体操の内容を変更すること」だと思った
					–	「なぜ？」という本人の思いをくみ取ることが、日本人・留学生ともに難しい/今の D さんの状況から、今後も、現在の役割として、D さんは何を取り組むべきかを理解できなかった/自分だったらどう関わるか想像して選んだが、違っていた/文章を読んで D さんの気持ちを知ることが難しい/なぜ、高齢者を手助け（過剰介護）がいけないのか？/考え過ぎただけ/2 つの選択肢で迷った
		47%	68	・ 介護過程	–	「思いをくみ取る」という本人の意思の尊重をくみ取ることが難しい/日本人独特の感情であり、理解できなかった/なぜ、高齢者を手助け（過剰介護）がいけないのか？/あるいは、高齢者には判断を任せるより自分たちが導いていくなどの考えが根強い。弱者という立場が職場にもあるのかもしれない/よく読めばわかった/2 つの選択肢で迷った

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	46%	69	・**成長と発達** ・**乳幼児期の発達**	–	１歳３ヶ月の子の様子を説明する用語の知識不足/**選択肢の専門用語（3 か月微笑・社会的参照・クーイング・自己中心性・二項関係）すべてわからなかった**/「クーイング」など、言葉がわからない/乳幼児期の発達段階は日本人学生も同様に理解が難しい/読めるが難しい/専門用語が難しい/言葉を覚えにくい/言葉に親和性がないので覚えられない/細かい意味が十分に理解できなかった/選択肢の用語、授業内で学習できていなかった/2 つの選択肢で迷った
		64%	70	・**高齢者の年齢規定**	–	各法律とそれぞれ内容の理解不足/「高齢者虐待防止法」などの法律について、暗記をしていないのでわからない/法律が規定している細かい内容の把握ができていない/高齢者虐待防止法を理解していなかった/「高齢者虐待防止法」は 75 歳からだと思った/日本の法律や制度がわかりにくい/高齢者の道路交通法等は、母国には制度がなく、かえって面白いと記憶している/介護の知識がなかった/高齢者の運転について知らなかった/全て読むと、わからなくなってしまう/読めるが、難しい/2 つの選択肢で迷った
		56%	71	・**嚥下機能**の低下の原因	–	摂食嚥下の 5 分類を理解していなかった/嚥下機能に関わるからだの部位の変化理解できていなかった/医学的な部位の名称を理解していない/喉頭の挙上⇒喉頭蓋の動きは理解しているが、喉頭の挙上と結びつかなかった/読めるが、難しい/全て読むとわからなくなってしまう
		68%	72	・老年期の記憶 ・記憶と注意機能	1	選択肢１「若い頃の記憶」は、40 歳代だと思った
					–	老化についての理解が低い/老年期にはどのような影響が起こるのか日本語で理解できていなかった/「エピソード記憶・意味記憶・手続き記憶」は、何回も模試を行い理解していたが、具体的に事例を出されると戸惑った/読めるが難しい
		42%	73	・**心不全** ・姿勢による呼吸の変化	–	虚血性心疾患である狭心症や心筋梗塞を口頭試問すると、理解できていた/考え過ぎただけ/読めるが、難しい/間違えて覚えた
		63%	74	・**褥瘡の原因** ・褥瘡と排泄	–	皮膚の症状について理解していなかった/皮膚トラブルなど各教科で説明している/皮膚の状態と体位変換を結び付けられなかった/読めるが難しい/2 つの選択肢で迷った
		57%	75	・**栄養状態を良好に維持するための方法**	–	高齢者の栄養を支えるケアに関する知識不足/老化についての理解が低い/歯のことなので栄養には関係ないと考えた(←正答選択肢１「歯科健康診査を受ける」) /タンパク質についての理解不足/選択肢を絞ることができたが、2 択で迷った/選択肢 1.と 2.で迷った
		44%	76	・**糖尿病** ・**多職種の業務内容** **各専門職における業務の範囲**	–	専門職の役割、とりわけ、介護支援専門員や理学療法士の役割が理解できていなかった/ケアマネは、訪問リハビリとは関係ないと考えた(←正答選択肢５) /糖尿病の理解はあっても、在宅復帰を想定（設問文では「自宅療養」と表記）した他職種の役割の理解不足/「糖尿病」というワードだけで考え、選んでしまった/専門職（多職種）の名前は聞いたことがあるが、具体的な業務の違いについて知っているつもりであったが、問題になるとわからなかった/各専門職の役割は理解できていても、日本語表記から関連づけが難しかった/説明を聞いたら、わかった/2 つの選択肢で迷った

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ	認知症の理解	48%	77	・ **認知症高齢者の推計値** ・ **高齢社会白書の推計値** ・ **オレンジプラン**	–	**数値を覚えるのが大変**/年号のある問題に関する苦手意識/言葉は理解できていた/言葉は読めるが、内容の意味がわからない/勉強したが忘れました/授業で行っていたことを忘れた/単純に覚えていないのでわからなかった/年代別や時事問題は学習不足/情報を知らなかった/全くわからない/統計数は親和性がないため、覚えにくい/日本の人口問題など数値を覚えることが難しく、問題が変わるとわからなくなる
		41%	78	・ **中核症状と BPSD 症状**	–	**中核症状と BPSD 症状の違いが理解できていない**/中核症状の意味がよくわからないので、BPSD との違いもわからない/中核症状は理解できるが具体的な症状がどのようなことかの理解が不足/中核症状と BPSD を覚えていなかったので、区別できなかった/全くわからない/認知症の症状はどれでも当てはまると思った/認知症の人が周囲にいないので理解できない（ベトナム）/説明をしたら理解できた
		47%	79	・ **せん妄**	–	薬の副作用についての知識不足/言葉は読めるが、内容の意味がわからない/選択肢 5「幻覚」症状はよく理解できていたが、見え方の問題が「見える」こと、視力の問題だと思っていたため間違いにつながっていた/全くわからない
		28%	80	・ **認知症の初期症状** ・ **各認知症の特徴と症状** ・ 正常圧水頭症 ・ レビー小体型認知症	–	認知症の分類は理解していたが、具体的な症状が認知症の分類と照合できていなかった/原因疾患を理解していなかった/選択肢 3.「エピソード記憶」の理解が乏しかった/全くわからない/内容がディープすぎて理解できなかった/言葉は読めるが、内容の意味がわからない/間違えて覚えた/レビー小体型認知症とアルツハイマー型認知症の理解は深い/年齢・性別・特徴を重視した学習を行っていたため正常圧水頭症は、（早期発見できる）治る認知症という理解はあった
		58%	81	・ **認知症の発症リスクを低減する方法**	–	全くわからない/純粋に間違えた/忘れてしまっている/勉強したが忘れました
		53%	82	・ **抗認知症薬**	–	認知症それぞれの特徴、症状に対する理解不足/認知症の方が薬を服用していることは知っていたが、効能まで把握していなくて間違えた/関連する薬剤の効果や効能の知識不足/抗認知症薬の効果を理解することができていなかった/全くわからない
		64%	83	・ **前頭側頭型認知症**	–	「前頭側頭型認知症」の名前は知っていたが、症状までは把握していなかった/選択肢 3「常同行動」についての理解不足/マークシート記入間違え
		59%	84	・ アルツハイマー型認知症の対応方法	1	「パソコンの操作に対してイライラして怒りっぽくなった」と（設問文に）書いているからパソコンはだめだと思った（＝選択肢 1「パソコンの処分」を選択）
					4	選択肢 4.「薬物治療について主治医に相談」を回答する者が多かった
					5	設問文「最初に行う助言」を見落としており、選択肢 5.（「施設入所についてケアマネに相談」）を選んだ

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ	認知症の理解				–	在宅支援の家族の役割の想像力の欠如/言葉がけに対する知識不足/全くわからない/怒りっぽくなっているから「パソコンの使い方の手助けする」と、もっと怒ると思った（←正答選択肢 2.）/ネパールでは判断が異なる。できることはすぐ行う/文章問題は読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた/2 つの選択肢で迷った/正答の理由がよくわからない
		54%	85	・ グループホームでの介護福祉職が果たす役割 ・ **介護福祉職と関連職種それぞれの役割** ・ **他職種の仕事内容**	3	選択肢 3.「医師に、夜間は騒ぐ可能性があるので睡眠薬の処方を依頼する」との回答が多かった
					–	介護支援専門員の役割がわからない/地域ケア会議がわからない/グループホームに看護師はいないと思った/問題で聞かれていることをよく理解できていなかった/認知症であることだけ考え、骨折していることを考えなかった/全くわからない/文章問題は読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた
		44%	86	・ 相談を受けた介護福祉職の（家族介護者に対する）助言	2	本人の望んでいる（車の）運転をしたほうがよいと思った
					–	「老人クラブに参加することや音楽を流して気分転換すること」はいいことだと思った/「怒りっぽい」というワードから、音楽を流してリフレッシュすることが良いと思った
					–	「E さんが怒りっぽい＝認知症の初期症状＝かかりつけ医への診断」という流れが理解できていない/文章を読み取る力が不足している/「怒りっぽくなった」「覚えていないことが増えた」が認知症につながらない/問題の意味がわからない/勉強したが忘れた/全くわからない/**2 つの選択肢で迷った**/どの回答も正解のように思った/文章問題は全員読むことが気にならず、むしろ文章問題を得意としていた
	障害の理解	64%	87	・ **ICIDH の能力障害**	–	障害の概念について/勉強したが忘れた
		42%	88	・ **障害者差別解消法** ・ **障害者差別解消支援地域協議会**	–	共生社会についての知識不足/「法律」に関するものはわからない/法の解釈が難しい/日本の法律が難しい/それぞれの法律の位置づけ等がわからない/法制度の知識不足/**障害者差別解消法、合理的配慮、共生社会、など全てにおいてわからない/「合理的配慮」の内容理解不足**/障害者差別解消法については学校で習ったので知っていたのでできた
		26%	89	・ **筋ジストロフィー** ・ **脊髄小脳変性症** ・ **脳血管疾患** ・ **脳性麻痺** ・ **脊髄損傷**	–	脳性まひに関しては理解不足が多い/脳性まひについては，タイプ、事例をもって学習した/「不随意運動」という言葉は知っていたが、「痙直型」という言葉を知らなかったので、間違えた/神経障害等学習不足/疾患名と症状が結び付けられなかった
		43%	90	・ **内因性精神障害** ・ **精神疾患**	–	障害・病気の知識と理解の不足/**内因性、外因性、心因性、それぞれの障害特徴がわかっていなかった**/選択肢 3.「パニック障害」や選択肢 5「統合失調症」がわかっていない

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ	障害の理解	41%	91	・ **知的・身体・精神等障害の制度やサービス** ・ **知的障害者の地域移行時の社会資源やサービス** ・ 障害者福祉のグループホーム ・ 知的障害者が施設入所している事と支援	5	選択肢 5.「同行援護」は視覚障害者が利用できるサービスであることを忘れており、誤答した
					–	「地域移行支援」等「障害者総合支援法」は知識が定着しない/選択肢 2「グループホーム」は認知症高齢者が入所するところだと思っていたから、障害者のグループホームの選択肢は間違っていると思ってしまい、間違えた(選択肢 2 が正答）/グループホームは高齢者しかいないと思った/**選択肢 1.～4.それぞれの施設(ケアハウス・共同生活援助・自立支援医療・精神科病院）に関する知識不足**
		51%	92	・ 自閉症の特性	–	自閉症スペクトラム障害が学習障害であると勘違いした/自閉症スペクトラム障害は授業で習ったので簡単だと思った
		27%	93	・ **ALS（筋委縮性側索硬化症）の特徴**	4	ALS は関節に痛みがあると記憶したため、選択肢 4.「運動失調が現れる」とした
					–	パーキンソンと混同している/疾患名と症状が結び付けられなかった/ALS 患者に会ったことがないので理解ができなかったが、勘で当たった（実は、よくわからなかった）
		48%	94	・ **障害受容のプロセス**	–	糖尿病（特に、糖尿病性網膜症）がわからなかったため、難しく感じた/「糖尿病性網膜症」ベトナム人はわからない/障害受容のプロセスを文章にするとわからない/「混乱期等」の選択肢であれば何とか少しはつながったと思う
		42%	95	・ **ホーエン・ヤール重症度分類** ・ **パーキンソン病のステージ**	–	パーキンソン病は知っていたが、ホーエン・ヤール重症度分類については聞いたことがなかったので、間違えた/ヤールの重症度分類を習っていない/生活機能分類で理解させていたが、もう一つ読みが足りない
		60%	96	・ **地域の社会資源** ・ **民生委員**	–	日本の社会制度がわからない/日本の制度やシステムに馴染みがないので、イメージができない/地域連携についての理解不足/社会資源について理解していたが、説明をすると理解が間違っていた/勉強したが忘れた/答えを間違えた人が多かった
	こころとからだのしくみ	67%	97	・ **マズローの欲求階層説**	–	「所属・愛情欲求」の言葉の方が、選択肢にあれば何とか選べることができたと思う/勉強したが忘れた
		31%	98	・ **大脳の仕組みや機能**	–	大脳局部の部位の機能の混乱/脳の部位名称と役割が覚えられない/頭頂葉に体性感覚野があることを知らない/皮膚の痛みの感覚についての知識不足/痛みと局在の部位の理解不足/脳の構造の理解不足/ウェルニッケやブローカーは理解している
		45%	99	・ **爪と疾患の関係** ・ **指・爪の変化や管理**	–	爪の形状の理解　日本特有の言い方（巻き爪・ばち状の指）/疾患・病態との組み合わせ・結びつきがわからない（例）爪の白濁→爪白癬　など/選択肢 3.「さじ状」が「スプーン」とは思わなかった（→教科書やナビにも「スプーン」と記載)/勉強したが、忘れた/2 つの選択肢で迷った/集中できなかった

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	41%	100	・ 口臭及び口腔衛生	2	実際の利用者を見ていると、唾液量が多い人は口臭があるため、選択肢 2.「唾液量が多い人は口臭がある」と回答したら、×だった
					3	**選択肢 3.「ウイルス感染が口臭を生じさせる」と思った**/インフルエンザの時も口臭があるという認識
					–	**オーラルケア自体は勉強してきたが、口臭に関しては勉強不足**/口臭の原因として、最も適切な原因がわからない/迷って回答した/自分ではわかっていたつもり/2 つの選択肢で迷った/**集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった**
		30%	101	・ **大腿骨頸部骨折についての幅広い理解や知識** ・ 骨の部位や骨折の知識	1	選択肢 1.「転落する」と骨折すると思った
					–	転倒(予防)に対する技術、実践としてわかっているが、知識としての理解不足/現代の治療やリハビリの方針の理解不足/高齢者だから早期にリハビリテーションを開始するのはよくないと思った（→本来、これが正答選択肢 3.）
		38%	102	・ **摂食・嚥下のプロセス**	–	**摂食嚥下の 5 分類が、明確に理解できていなかった**/摂食嚥下のプロセスを間違って覚えていた/先行期の内容を理解していなかった/窒息の多い接触嚥下の時期は理解できていた/唾液がでる行動をイメージできなかった/勉強していない/2 つの選択肢で迷った/1.か 4.か答えに迷った
		52%	103	・ **失禁の種類** ・ 溢流性尿失禁	–	設問文「歩き回った後」わかりにくい/**全選択肢の漢字が難しく、わからなかった**/設問が長いので、理解するのに時間がかかった/専門門用語が難しかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/（母国語での試験なら）選択肢の言葉が理解できた
		44%	104	・ **正常な尿**	–	**失禁はわかるが、正常な尿の特徴について理解不足**/選択肢 4.と 5.で迷った/マークシート記入間違え
		40%	105	・ **便秘の種類や原因**	–	**弛緩性便秘の意味や特徴がわからなかった**/機能性便秘についての理解不足/弛緩性便秘の特徴である蠕動運動の低下や高齢者に多い便秘との理解はできていた/2 つの選択肢で迷った
		62%	106	・ **抗ヒスタミン薬の睡眠への影響**	–	睡眠自体は勉強しているが、睡眠と薬の関係と特徴については理解不足だった/学習した記憶はあるが、忘れていて間違えた/選択肢 2.か 4.か答えに迷った/服用したことがあるのでわかった
		40%	107	・ **終末期ケア**	–	「ターミナル」に対する用語の知識不足/唯一、「ターミナルケア」はわかる/**リビングウィルの理解不足**/「グリーフケア」と「リビングウィル」を混同している
		54%	108	・ **死亡直前の身体変化**	–	終末期のケアに関する理解不足/死へのイメージがつかめなかった/授業内容の理解不足/死亡直前と死亡後がごっちゃになった/直前と直後の判断ミス
医療的ケア	医療的ケア	68%	109	・ **喀痰吸引の範囲**	–	解剖の理解不足/介護福祉士が行える行為の理解不足/言葉の意味は理解できているが、選択ミス/選択肢 1． 2.「咽頭」はわかったが、設問にある「喀痰吸引の範囲」が「咽頭のどのあたりまで」かは、細かい選択の為、わからなくなった/授業ではわかっていたが、文字になると読み取れなかった/やはり，演習を繰り返すと理解できる/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった。
		67%	110	・ 喀痰吸引が**制度化された変遷** ・ **法改正**後の介護福祉士の職務	1	選択肢 1.「医行為を除外された」は、医行為であることには間違いないので惑わされた
					3	選択肢 3.「介護福祉士は研修を受けていれば、病院でもできる」と思った

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
医療的ケア	医療的ケア				5	選択肢 5.「介護福祉士がインスリン注射できる」を選択した者が多かった/その理由として、「（利用者が自分でインスリン注射をしている時に）介助ができるから」と理解したのではないか
					–	言葉の意味は理解できているが、選択ミス
		71%	111	・ **喀痰吸引の実施**	–	問題が難しかった/言葉の意味は理解できているが、選択ミス
		47%	112	・ **喀痰吸引に必要な物品の管理** ・ **喀痰吸引をする際の消毒方法**	–	選択肢 5「70～80%になる前」ではなく、「70%以下」だと思った（←選択肢 5.が正答）/正確に理解していなかった/実践しているので手順はわかるが、文章になると、どの状況を説明しているのか、わからなかった/授業ではわかっていたが、文字になると読み取れなかった/言葉の意味は理解できているが、選択ミス/今現在授業進行中の内容/2 つの選択肢で迷った/選択肢を絞ることはできたが、正しい答えがわからなかった
		63%	113	・ **経管栄養の実施時の留意事項**	–	経管栄養の方に対する工夫、配慮といった点が勉強不足/**経管栄養の栄養剤が冷たいままだったら、どうなるのかが理解できていない**
総合問題	総合問題	30%	114	・ **脳の疾患・脳血管障害**	–	**「脳の細い血管が詰まっている＝梗塞」の理解不足**/脳の疾患の種類が理解できていない/(脳の疾患それぞれの）違いを理解していなかった/言葉の意味は理解できているが、選択ミス
		39%	115	・ **訪問介護員** ・ **ホームヘルパーがとる行動（業務内容）** ・ 脳梗塞	2	賞味期限が 2 日前に切れていたから、食べてはいけないと思った
					3	選択肢 4.「相談」の必要はないと思った（←正答）から、選択肢 3.「缶のふたを開けて」おけばいいと思った
					5	保存容器にうつしておけば食品自体に問題ないと思った
					–	**賞味期限が 2 日前に切れた缶詰の対処方法が不明/「賞味期限（消費期限）」についての知識不足**/この回答は文化の違いが影響しているように思われる/お金がないと賞味期限切れでも、人によっては食べる/果物は、新鮮な生のものを食べるため、缶詰は食べない(お魚等の缶詰も、あるが食べない)/賞味期限が切れていたら基本的には食べない/文化の違いというよりは、そもそも缶詰は普段からあまり使用しない/日本のコンビニなどは賞味期限に厳しい/私だったら、1 日ぐらいなら食べちゃうと思う/「賞味期限」については中国でも標記されており、知っていたが 「消費期限」については、中国にはない。日本に来て初めて知った/**2 つの選択肢で迷った**
		40%	116	・ **介護保険の申請と各関連事業所** ・ **介護予防サービス・支援計画書と作成者**	4	設問文に「訪問介護」が出てくるので、選択肢も同じ「訪問介護事業所」という言葉をヒントに選んだ
					–	地域包括支援センター及び主任介護支援専門員の役割についての理解不足/要支援・要介護の区別がつけられていない/要支援者の制度理解不足/選択肢が混乱しやすい/問題が難しすぎる
		48%	117	・ **介護過程** ・ **記録物の種類の違い**	4	問題文をしっかりと読まないで、選択肢 4.「プロセスレコード」が大事だと思った
					–	生活相談員が作成する記録がわからない/**インシデント報告書・エコマップ・プロセスレコード・フェイスシートが、それぞれ、どんな記録になるのかイメージできない**/各書類の意味や目的の理解不足

領域	科目	正答率	No.	誤答理由（太字表記：複数回答だったもの）		
				学習課題	誤選択No.	誤答理由
総合問題	総合問題	57%	118	・ **中核症状** ・ **失行**	1	選択肢 1「幻視」が原因で、歯を磨こうとしなかったという可能性を考えた
					–	意味は理解できたが、間違った/「常同行動」を習ったと思うが、忘れた/間違えて覚えていた/2 つの選択肢（2 番と 5 番）で迷った
		21%	119	・ **社会福祉法人の役割**	–	既にある制度と、独自の事業の区別ができなかった/**選択肢にある各事業（公益事業　日常生活自立支援事業　相談支援事業　自立相談支援事業　地域生活支援事業）が何かわからない**/介護保険制度のことがわからない/(私の出身国の）支援体制がここまで整った環境ではなく、想像することもできない/すべてわからない/ちんぷんかんぷん状態
		44%	120	・ **精神科の入院の形態** ・ **精神疾患の制度**	–	**全選択肢の言葉（任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院、緊急措置入院）の意味がわからなかった/**精神疾患の入院体系はわからない/措置の知識が少ない
		55%	121		–	自分ならどう会話をするのか想像して答えたが、間違っていた/単純に対応方法がわからない
		48%	122	・ **精神疾患の制度** ・ 精神疾患の患者への対応 ・ 自立支援に関する基本的な理解 ・ 統合失調症のある方の就労に向けての支援	–	「自信がない」と言っているから、対策はいらないと思った/自己決定の原則に沿うことができなかった/雇用管理に関すること/内容を誤解した/選択肢 3.と 4.で迷った
		52%	123	・ **関節リウマチ**	1	事例文「夜中に目が覚める」という言葉から、選択肢 1「睡眠不足」だと思った
					–	選択肢の言葉（睡眠不足・低栄養・平衡感覚の低下・筋力低下・関節の炎症）に関する知識不足/2 つの選択肢で迷った
		45%	124	・ **障害者総合支援法の自立支援給付費** ・ **補装具費**	–	車いすの購入と補装具（→正答選択肢 2）がつながらなかった
		41%	125	・ **関節リウマチのある人の生活**全般	–	関節リウマチの人への介助留意点がわからなかった/内容を誤解した/2 つの選択肢で迷った

② 日本語に関する誤回答の理由

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
人間と社会	尊厳	69%	1	・ **人工透析** ・ **延命治療** ・ 意思決定 ・ （気持ちに）迷い		事例を読み解けない/想定の意味がつかめなかった/設問が長く、理解が難しい/文末が理解しがたい/使用語彙が難しい/全体的に意味がわからない/意思確認の主語がわからなかった/「医療職が作成する」の意味がわからない/(翻訳された）英語で意味を理解できた
		61%	2	・ 利用者の意思を**代弁**	1.「インフォームドコンセント」 2.「ストレングス」 3.「パターナリズム」 4.「エンパワメント」 5.「アドボカシー」	問題の意味がわからない/専門用語がわからなかった/カタカナは苦手(特に中国）カタカナと英語の意味がわからなかった/カタカナ文字はわかりづらい（ベトナム）/**カタカナで書いた意味がわからない**
	人間	48%	3	・ **自己覚知**	2.「背景を**洞察**する」 3.「**主観的**に分析する」 4.「私生活」「打ち明ける」 5.「**価値観**」	設問文．「最も（適切なもの）」の問題は正解が選べない/選択肢 2.「洞察」→「知る」であればわかる/「主観的」の意味を間違えていた/**「主観的」：「客観的」理解不足/使用している言葉が難しい/**(翻訳された文章で）意味がわかった/「自己」の漢字はわかるが、「覚知」がわからなかった
		83%	4	・ 配慮	1.「視線が合わせられる位置」 2.「立ったまま」 3.「**密着**した距離」 4.「**薄暗い**場所」	短時間で日本を理解するのが難しい/使用している言葉が難しく、意味が理解できなかった/日本語の理解不足/選択肢 5．たくさん⇒多くの・にぎやか⇒騒々しい等の表現になると、困難になりやすい。このような簡単な表現は、理解しやすい
	社会の理解	50%	5		4.「近隣住民同士」 5.「**生活困窮**」	選択肢 5.「生活困窮」「貧困」との違いがわからない/**使用語彙が難しい**/漢字の意味はわかったが、どの答えを指しているのか理解ができなかった/専門用語がわからなかった/文章の意味を誤解していた/**似たような語で混乱した/それぞれの単語の意味が混同してしまう**
		66%	6	・ **働き方改革** ・ **改革**	2．「有給休暇」 4．**「正規雇用労働者」「非正規雇用労働者」** 4．「待遇の格差」「当然である」	使用している言葉が難しく、意味が理解できなかった/知識がそもそもないことに加えて、言葉が何を指しているのか頭で連想することができなかった/文章がわかりづらい/単語自体はわかった/日本語の理解不足
		57%	7	・ **身寄り**がない		日本語の文章が理解できなかった/日本語の理解不足/言葉の意味がわからない/設問が長く、理解が難しい/母国語でも制度の意味は難しい

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
人間と社会	社会の理解	35%	8	・　財政	1.2.「財源」 2.「社会保障給付費」「**占める**」 1～5.「割合」などの言葉が難しい	「財源」「財政」という言葉を説明すると、知っているが、理解できていない/熟語の意味の理解不足/設問が長く、理解が難しい/言葉の意味がわからない/書いている内容がわからない/文章全体の理解ができず、答えを選択することができなかった/趣旨が読めていなかったので、誤回答だった/問題自体の意味がわからなかった/漢字の多い言葉は、意味わからない/日本語の理解不足/母国語でもそうだが、法律や税金、保険料について覚えるのが難しい
		64%	9	・　介護保険制度の**被保険者**	4.「（都道府県が）**徴収する**」	選択肢 2.3.「（65 歳）以上」「（20 歳）以上」を「以下」と勘違い/言葉が難しい/趣旨が読めていなかったので、誤回答だった
		34%	10	・　介護予防・日常生活支援総合事業	2.「予防**給付**」 3.「介護**給付**」 4.「権利擁護事業」	熟語の意味の理解不足/使用語が難しい/言葉が難しい/母国語なら日常生活の言葉に近い訪問事業の選択肢を選べた
		27%	11		1.「**厚生労働大臣**」「基本的な**指針**」 2.3.「**策定**」「努力義務」 4.「異なっている」 5.「文化芸術活動・スポーツの振興」	「厚生労働省」とか「市町村」とかいう言葉は、頭に入らない/「厚生労働大臣」「策定」「努力義務」は説明ができない/「策定」という言葉の意味がわからず、問題が何を指しているのか理解できなかった/**使用語彙が難しい/**熟語の意味の理解不足/日本語の理解不足/英語の表記なら、わかった
		36%	12	・　**障害者総合支援法** ・　**居宅介護**	4.「**審査会**」 5.「（市町村の）担当窓口」	設問文.「最初の手続きとして」の「最初」という表記に焦点を当てることができなかった/事例の状況（交通事故によって下肢に障害）がわからない/問題自体の意味がわからなかった/熟語の意味の理解不足/意味がわからない/言葉が難しい/選択肢 4.「申し出る」と選択肢 5 .「（支給）申請」の違いがわからない/日本語の理解不足/「障害福祉サービス＝disability welfare services」の表記なら、わかった
		28%	13	・　創設 ・　共生 ・　**共生型サービス**	3.「**同行援護**」	熟語の意味の理解不足/言葉が難しい/カタカナ苦手(サービス・グループホーム・デイサービス・リハビリテーション）/**日本語の理解不足/**ベトナムの制度に似たようなものがあった/**「共生」の意味がわからない**
		55%	14	・　障害支援区分 ・　就労支援施設 ・　**こだわり** ・　**処分** ・　**パニック** ・　購入している雑誌 ・　介護福祉職 ・　障害者虐待防止法		選択肢 2.「とっておきましょう」を「取る」と解釈した/事例の状況がわからない/問題文を読んで、その意味を理解することができなかった/混乱して、日本語の問題だと思った/問題文が正しく理解できていない/日本語の意図がつかめない/日本語の理解不足/使用語彙がわからない/**意味がわからない/**話し言葉は理解しづらかった.例えば、選択肢 5.「雑誌がきますよ」の「きますよ」という言葉に引っかかった/言葉かけの言い回しが理解できなかった/日本語での答え方わからない/日本語の話ことばが母国語だとわかりやすかった/ベトナム語で意味がわからなかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
人間と社会	社会の理解	37%	15	・　（注釈）最高裁判所事務総局家庭局	1.「申立て」 4.「**候補者**」 5.「**報酬**」	言葉の意味を間違えて理解していた/意味がわからない/言葉が難しい/**言葉と漢字が難しい**/日本語の理解不足/母国語だと選択肢の言葉がわかった
		20%	16	・　**補足性**	2.「**無差別平等**」 4.「**資産**」 5.「**世帯**」	**言葉、文章が難解**/内容がわからない/意味を理解することができなかった「補足性の原理」など言葉が難しい/**使用語彙が難しい**/日本語の理解不足
介護	介護の基本	69%	17	・　**散乱** ・　**事情** ・　日課 ・　（豆から）挽いて		読解力のなさ/読み間違えた/質問が長いので意味がわからなかった/事例が長く、読んでいるうちにわからなくなった/長い文章の中に理解できない言葉があると、全体がわからなくなる/文章の意味は正しいがどうか、迷った/日本語の理解不足/事例がよく理解できた/母国語では理解することができた
		66%	18	・　脳卒中 ・　後遺症	4.「おしゃれ」	設問文．「俳句」を「徘徊」と読み間違えた**/「俳句」がわからなくてどれが正解か迷った/読むのを間違えた/**日本語の理解不足/理解できなかった/意味がわからない/質問が長いので、意味が理解しにくい/長文の理解が難しい/事例が長く、読んでいるうちにわからなくなった/ベトナム語の文章であればわかった
		41%	19	・　関連	1.「電気スタンド」 4.「活力（が低下する）」 5.「床の**性状**」「**バランスを崩す**」	意味が理解しにくい/意味がわからない/答えが理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/問題の内容を誤って理解した/母国語なら、環境因子の選択肢がわかりやすかった
		68%	20		1.「意向」「継続」 2.「**手ぬぐい**」 4.「(整理)整頓」「壁に立てかける」 4.「押し入れ」 5.「(家具の)配置」	使用語が難しい/文章が難しい/**日本語の語彙、文法の理解不足/**ベトナム語であればわかった
		45%	21	・　平成 30 年版**高齢社会白書** ・　**内閣府** ・　**家庭内事故の発生割合**		意味がわからない/問題はイメージできた/日本語の理解不足/ベトナム語の訳し方が違う
		42%	22		2.「要求」「応えられない」「日課」 4.「**なじみ**（のある人）」「継続していく」	**選択肢 3.「現在よりも過去の身体的・精神的状態（の）把握」が理解できなかった/**しっかりと読まなかった/文章を理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語の理解不足/問題はイメージできた

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	介護の基本	41%	23	・　サービス提供責任者	1.「作成する」 4.「（判断能力が）十分でない人」 4.「日常的な金銭管理」 5.「召集して、サビ担会議を開催する」	記載の意味/日本語がわからない/**意味がわからない/熟語の意味の理解不足**/日本語の理解不足/サービス提供責任者はわからないが、「service provider」なら答えが出せた
		51%	24		2.「（チームから）除かれる」 5.「（ケアの）方向性」	設問文「最も適切」を「最優先」ととらえてしまった/5 つの選択肢の文章が理解できなかった/よく理解できなかった/はっきりわからない/日本語がわからない/読解力不足/難しい言葉がある/よく読まないので、間違えた
		70%	25	・　(介護福祉職の）倫理	1.「伴わなくても」 4.「**暴力をふるう**」 5.「打合わせ」	質問の意味がわからない/問いの意味を理解できていない/熟語の意味の理解不足/内容がわからなかった/日本語がわからない（読解力不足）/誤解した/母国語では理解することができた/ベトナム語であればわかった/母国語で誤答
		60%	26	・　**保菌者**	1.「(保菌者の)有無」 2.「接触感染症予防策」 5.「用いられる(消毒薬は)無効」	言葉がわからなかった/わからない/問題の意味が難しかった/選択肢の文章が全てわからなかった/（母国語での試験を見たら）MRSA 聞いたことがあった/（母国語での試験でも）質問がわからない/母国語の「感染」という意味と異なっているのでは？
	コミュニケーション	27%	27	・　**直面化**	1.「**矛盾点**」「指摘する」 2.「促す」 4.「簡潔(に返す)」	**選択肢の文章の意味がほとんどわからなかった/言葉がわからなかった**/使用語が難しい/日本語がわからない/読解力不足/しっかりと読まなかった/意味がわからない/問題の内容を誤って理解した
		61%	28	・　意欲(が低下した人)	2.「励ます」 4.「背景」 5.「（自己決定してもらうのは）避ける」	選択肢 1.「考え方を変える」＝気分転換と思った/選択肢 1.「考え方を変える」、選択肢 3.「自然に回復を待つ」それぞれイメージが持てていない/日本語の語彙、文法の理解不足/漢字が理解できなかった/理解できなかった/考え方が間違った/日本語の理解が不十分で、選択を間違った/日本語をよく読まなかったため/ほとんどの選択肢がわからなかった/答えの意味を誤解した/選択肢の文が短くて伝わらない/（母国語での試験なら）選択肢の言葉がわかった
		41%	29	・　構音	1.「**控える**」 3.「促す」	**漢字がわからなかった**/日本語の表現がわからない/わかりにくい/日本語の理解が不十分で、選択を間違った/集中して文章をよく読まなかったため/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語なら）「控える」がわかる
		67%	30	・　視覚	2.「最小限にとどめる」 4.「**準言語の活用**」[控える」 5.「あちら」「そちら」	設問文.「視覚」を「聴覚」と思ってしまった/わかりにくい/集中して文章をよく読まなかったため/問いの内容を読み込めていない/日本語の語彙、文法の理解不足

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	コミュニケーション	48%	31	・ **抽象的**（な言葉） ・ 社会的な善悪に照らして ・ **善悪** ・ 興奮 ・ 口調 ・ 叱った	1.「許されません」	設問文.「最も（適切なもの）」の問題は正解が選べない/選択肢 4.「ここで話をしましょう」を命令調に解釈した（ここでゆっくり…等の言葉が入れば理解できた）/事例が長すぎて、事例を理解しようとする意欲が低下する/事例文がわからないから選べない/事例を読んで情景をイメージするのが難しかった/長文の読解力の乏しさ/読むだけで精いっぱいな様子/言葉の理解ができなかった/会話文の理解が難しかった/問題文が読み取れなかった/日本語の語彙、文法の理解不足
		65%	32		1.「**叱る**」 4.「**介入**せずに**黙認**」	設問文.「家族への対応」→誰に対しての問いか、わからない/選択肢 1.「支持する」の意味を逆に、否定ととらえた/日本語の語彙、文法の理解不足/言葉がわからなかった/使用語が難しい/問題文が長い/日本語がわからない/読解力不足/問題文を誤って解釈していた/設問はイメージができた/(母国語での試験をみても)「叱る」がわからない
		69%	33			設問のイメージはできた/専門用語が少ないので、理解しやすかった/紛らわしい表現だった/日本語のニュアンスが理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/問題文が長い/留学生の日本語能力にはバラつきがある/日本語の漢字の意味がわかっていない/ふりがながあっても、言葉そのものの意味が理解できないことがあるようです
		53%	34	・ **客観的事実**を表す介護記録	3.「**無断外出**」 4.「認知症が悪化」「～ようだ」	「客観的事実」とその文章が結びつかない/質問の意味がわからなかった/意味を理解することができなかった/気づかなかった/考え方を間違った/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/**「客観的事実」と「主観的事実」でどちらがどういう意味なのかわからなくなってしまった**
	生活支援技術	52%	35	・ **一戸建て** ・ 地震対策 ・ 助言	1.「**キャスター**」 2.「書棚の上部」「**収納**」 4.「玄関の１方向」 5.「**リュックサック**」	「リュックサック」や「キャスター」などカタカナは中国系の学生は不得意/カタカナ語は難しい/日本語の語彙、文法の理解不足
		37%	36	・ **給付** ・ 住宅改修 ・ 助言	3.「滑りにくい（床材）」 4.「取り外し」 5.「（洗浄機能を）付加できる」	日本語の理解不足/答えの意味が理解できない/英語での表記なら、「介護保険の給付対象の住宅改修」という意味がわかった
		52%	37	・ ユニバーサルデザイン	3.「情報伝達の手段は一つにする」 5.「（広さが）確保（されている）」	**日本語の語彙、文法の理解不足**
		53%	38	・ 高次脳機能障害 ・ 着衣失行	2.「（衣類に）**印をつける**」 3.「口頭（で指示する）」	更衣介助に関する選択肢の文章が全体的にわからなかった/**選択肢の日本語表現が難しい**/わからない

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	生活支援技術	53%	39	・ **更衣**	1.「**マグネット**式」 2.「**ボタンエイド**」 4.「**ソックスエイド**」 5.「**袖ぐり**」	マグネット、ソックスエイドなどの**カタカナ語がわからず、設問内容を想像することが難しかった**/「更衣」の日本語理解不足/（選択肢 1.～5.それぞれの）一文が長い/難しい/意味がわからない/日本語の理解不足/(母国語なら）マグネットのボタンの意味がわかった
		57%	40	・ **身じたく**	1.「（関節）**可動域」** 3.「**破損した義歯**を修復する」	日本語の語彙、文法の理解不足/専門職の仕事内容がわからなかった/問題の意味、質問の意味がわからない/問題文をしっかり読んでなかった/問題文を正しく読み取ることができなかった
		69%	41			問題の意味が理解できていない/問題文をしっかり読んでなかった/読み込み不足
		55%	42	・ 静止 ・ **重心線** ・ 重心線が点Ｘから点Ｙに移動	1.～5.「**ふらつき**」	設問文.「考えられる」という言葉の意味が正しく伝わらない/設問の意味がわからず(設問に図がある)判断できなかった/文章とイラストでは、問われている内容を理解できなかった/図の理解ができず、何を問われているのかがわからなかった/絵の説明がわかりにくかった/問題と絵が結びつかなかった/文章のイメージが伝わらない**/問題文からイメージできなかった/問題の意味がわからない/**点Ｘから点Ｙ足動かすと思った/足の移動だと思ってしまった/前方・後方の解釈を間違えた/選択肢が理解しにくい/**日本語の語彙の理解不足/**読み込み不足/(母国語なら）問題と絵が結びついた
		58%	43	・ （階段を）昇降する	1.3.5.「声をかける」 2.「左後方」 4.「右前方」	日本語の語彙の理解不足/日本語の理解不足/日本語でイメージすることが難しかった/問題文の意味わからなかった/問題を読み間違えた/右と左を勘違いした/よく読めばわかった
		33%	44	・ **バランスガイド**を用いて	1.「**主食**」 2.「**副菜**」 3.「**主菜**」	設問文.「勧める」を見落とし、”変更しなければならないもの”と解釈した/「主食」と「主菜」の意味を間違えた/「副菜」と「主菜」を取り違えていた/「主食」と「主菜」の区別ができない/「主菜」は語句検索でも出にくい/「主菜」「副菜」がわからない/問題はイメージができた/日本語がわからない/読解力不足/**日本語の語彙の理解不足**/言葉の意味に迷いました/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった
		63%	45			設問文．「最も適切」に悩んだ**/日本語の語彙の理解不足**
		55%	46	・ **助言**	1.「骨粗鬆症」「ビタミン D」 2.3.「**控える**」 4.「**ドライマウス**」	「**控える**」何回も説明するが記憶できない/「**控える**」の意味は、むしろ「摂取したほうがいい」という意味だと思った/カタカナ語がわからず想像することも困難だった（「ドライマウス」）/問題のはやとちり/**日本語の語彙の理解不足**
		52%	47	・ **左半側空間無**	1.2.「**トレー**（ｔｒａｙ）」 3.「**クロックボジション**」 4.「**適宜**」	「トレー」は、「おぼん」であれば理解できた/**言葉が難しい/日本語の語彙の理解不足**/問いの読み方を勘違いしていた/質問がわからない/カタカナ語がわからず想像することも困難だった/（母国語での試験なら）正解がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	生活支援技術	40%	48		1.「**目尻**」「**目頭**」 3.「**臍部**」「**恥骨部**」 4.「**末梢**」「**中枢**」	全選択肢「拭く」という漢字の読みができなかった/選択肢５.「最後にまとめて拭く」という表現がわかりにくい/**身体の部分に関する語彙力不足**/**日本語の語彙の理解不足**/選択肢がほとんどわからなかった/読解力のなさ/勘違い/読み込み不足/マークシート記入間違え/集中力がきれた/よく読まなかった/(母国語で）目尻、目頭がわかった。それがわかれば解けた/英語：ペリファリーの意味が違う(翻訳された文について)
		60%	49		1.「血液**透析**」 2.「**胃ろう**を**造設**」「（入浴を）**控える**」 3.「心臓機能障害」「半身浴」 4.「**酸素療法**」 5.「回腸ストーマ」	**日本語の語彙の理解不足**/問題が難しかった/問題の意味がわからない/**選択肢がほとんどわからなかった**/選択肢の内容が難しかった/問題はイメージができた
		58%	50	・　**設置場所**		設問の図の「左右」の概念を、逆に、読み取って間違えた/図を見て、左右がイメージできなかった/図の意味を誤解した/モデルのイラスト欲しい/サイドレールとポータブルのどちらを動かすのかの理解に欠けた/**日本語の理解不足**
		62%	51		4.「（カテーテルを）**抜去**」	日本語がわからない/読解力不足/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでいなかった
		58%	52	・　「**解熱**を目的」「**座薬**」「**挿入**」	1.～4.「挿入」 2.「腹式呼吸」 3.「**とがっていない**」 4.「**排出されない**」	「排出」を便の排出のことだと思った/意味がわからない/**使っている言葉がわからなかった**/問題文の日本語表現がわからなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語がわからない/読解力不足
		31%	53		1.「**ウエルッシュ菌**」 2.「**カンピロバクター**」 3.「**サルモネラ菌**」 4.「**腸炎ビブリオ**」 5.「**黄色ブドウ球菌**」	カタカナが混じっているので、苦手/問題が難しかった/覚えていなかった/わからない言葉があった/母国語でもわからない/英語でもわからなかった
		58%	54		2.「（アルコールを）噴霧（する）」 4.「次亜塩素酸ナトリウム」	「次亜塩素酸ナトリウム」を使用すると、（衣類の）色が落ちると思っていた/**日本語の語彙、文法の理解不足**/意味がわからない
		36%	55	・　訪問販売の業者 ・　契約書 ・　サービス提供責任者 ・　迅速	1.「行政書士」 3.「家庭裁判所」 4.「保健所」 5.「相談支援事業所」	**言葉の意味がわからない**/言葉が難しい/親和性がないので覚えるのが難しい/文章を理解しきれなかった/事例がわからなかった/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/文章長いだけで読まない/答えを迷った/(母国語なら）事例　選択肢がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	生活支援技術	50%	56	・　（眠れないと）訴える ・　助言	1.「日光を浴びる」	意味がわからない/問いの意味がわからなかった/読解力のなさ/読み間違えた/**日本語の理解不足**
		41%	57		2.「（寝衣は、体に）**密着**した（形）」 5.「（会話が）**響かない**（ようにする）」	「密着」は「体に合っている」ことだと思った/**使っている言葉が難しい/言葉の意味が理解できなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/文章をしっかり読まなかった**/日本語の解釈間違い/読解力のなさ/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった/母国語は逆にわかりにくい/説明が複雑になっている
		50%	58		3.「ふらつき」	「体調に合わせて服薬時間を変更」の意味が理解できない/言葉がわからなかった/文章になるとわからない/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった
		56%	59	・　**死前喘鳴**	1.「**自然な経過**」	質問の意味が理解できなかった/事例の意味がわからなかった/会話の内容が誰の発言なのか理解できていなかった/事例をもっとよく読んでいればわかっていた/よく読めばわかった/日本語の意味が不足/日本語の理解不足
		59%	60	・　死亡後	1.「**ペースメーカー**」	設問文.「死亡後」は、（死亡直後のことではなく）お葬式のことだと思った/質問の意味が理解できなかった/問題の意味がわからなかった/問題の読み違い/日本語の語彙、文法の理解不足/集中できなかった
	介護過程	68%	61		2.「療養上（の世話）」 3.「経済的負担（を軽減する）」	言葉の意味が理解できなかった/日本語の意味がわからなかった/言葉が全般的に難しかった/言葉がわからない箇所がある/日本語がわからない/読解力不足/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった
		56%	62		1.**「抽出」「ニーズを踏まえて」** 3.「使役文」 5.「計画の見直し」	選択肢 1.「**抽出**された**ニーズを踏まえて**目標を設定する」理解できなかった/選択肢 3.『「～させる」と使役文で』がわからなかった/「させる」を「される」と読んだ/「～させる」への理解がない/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語がわからない/読解力不足/文章をしっかり読まなかった
		53%	63		1.「（介護福祉職の）価値観（に沿って）」 2.「**客観的**（に記録する）」 4.「経過報告」	設問文.「最も（適切なもの）」の問題は正解が選べない/選択肢 3.「直前（に家族に伝える）」がどこまでをさすのか？むずかしい/選択肢 4.「他職種」の「他」があると混乱する/選択肢 5「利用者の満足度よりも目標の達成を優先する」意味がわからなかった/使っている言葉がわからなかった/文章の内容があまり理解できない/文章の意味が理解できなかった/よく問題を読んでいなかった/語彙は難しかったが、イメージはできる/**日本語の語彙、文法の理解不足**

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	介護過程	57%	64	・　（長女とは）**音信不通**の状態 ・　打ち明ける		設問文.「最も（適切）」を読み忘れ、他のよさそうなものを選んでしまった/事例が長い/長文読解ができない/長いため、読まない/文の途中で難しい言葉があると、最後まで読まずに、あきらめた/事例がまずわからなかったので、選択肢を選べなかった/問題が全部読み切れなかった/文章の意味がわからなかった/文章の意味を読み間違えた/質問が理解できなかった/使用語が難しい/文章をしっかり読まなかった/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足/**(母国語なら)「音信不通」の意味がわかった/母国語にすると逆に難しい/簡単な日本語か、言葉の説明がついた文章をつくってほしい
		42%	65		2.「（ベッドで）**安静に過ごす**」	C さんの短期目標にすべき日本語が(事例文から）読み取れなかった/**事例がまずわからなかったので選択肢を選べなかった**/長い文章は時間がかかるので、あまり読まない/長文を読むことにつかれる/文章が長いと、内容がわからなくなる/長文読解ができない/文章の意味がわからなかった/**文章をしっかり読まなかった**/質問が理解できなかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足/**(母国語の試験を見て）自分の考えとして 4 番をえらんだが、短期目標ということで 5 番がいいと思った/ベトナム語で事例など全体の理解ができた
		60%	66	・　**監督** ・　**起居動作** ・　**嘆いていた** ・　今すぐいかなければ ・　断った	3.「高校野球」	設問文.「最も可能性が高い」という意味への理解不足/長文読解ができない/事例が長い/事例をよく読んでなかった/事例の内容を正確に理解できなかった/事例と問題が結びつかなかった/文の途中で難しい言葉があると、最後まで読まずに、あきらめた/**意味が理解（解釈）できない**/事例からイメージができない/理解が違った/内容を誤解した/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間足りなかった/（母国語での試験なら）事例と選択肢が結びついた
		50%	67	・　（その様子を）眺めていた	1.「関心（を取り戻す）」 5.「指摘（した参加者）」	設問文.「体操の時間に遠くから眺めていた」のイメージがつかない/事例の内容を正確に理解できなかった/事例の文章が難しかった/事例からイメージができない/文章読解ができない/問題文の理解不足/**意味がはっきりわからない**/意味が理解できない/質問が理解できなかった/読解力不足/読み込み不足/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間足りなかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
介護	介護過程	47%	68	・　農業 ・　夏野菜 ・　**収穫** ・　**採れたて** ・　うつむいて	1.「関わって」 2.「（家事に）**専念**（したい）」 3.「**後継者の育成**」「関わりたい」 4.「（家で）のんびり（したい）」	設問文.「苦手」を「上手」と読んでしまった/長文読解/長い文章は時間がかかるので、間違える/長文のため、理解が難しかった/事例が長い/事例がまずわからなかったので選択肢を選べなかった/事例の把握、野菜・・・喜ぶ＝「農業にかかわりたい」につながらない/文の途中で難しい言葉があると、最後まで読まずに、あきらめた/わからない語彙が多い/質問がわからなかった/問題の意図がわからなかった/**日本語の理解不足**/**読解力不足**/思いがわからない（E さんの思いを読み取れない）/時間が迫っていて、長文だったので、設問文を読まないで回答した/時間足りなかった/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	46%	69	・　交互に ・　（緊張が）**解けた** ・　（友人が）**立ち去る**	2.「（社会的）参照」 3.**「クーイング」** 4.「自己中心性」 5.「二項関係」	「微笑」等は、１字のみで想像して判断している/**使用語彙が難しい**/長くて、わかりにくかった/問題文がわからなかった/文章が長い/設問での事例がまずわからなかったので、選択肢を選べなかった/文章の中に難しい言葉があると、前の文章がわからなくなる/カタカナが苦手/英語だと設問の意味がわかった
		64%	70	・　年齢規定	1.「雇用（の安定）」	選択肢 4,「（免許証の更新の）特例がある」が理解できない/後期高齢者など、頻度の多い語彙は反復することで理解度が高くなる/意味がわからない/漢字の単語が長いと意味がわからない/日本語がわからない/読解力不足/英語だと設問の意味がわかった
		56%	71		1.**「舌骨」**「上昇」 3.**「舌骨上筋」**「増大」 4.**「喉頭挙上」**「不足」 5.**「咳そう反射」**「増強」	**選択肢の専門用語の漢字がわからなかった**/身体に関する用語の理解不足/嚥下機能の言葉がわからなかった/専門用語が難しい/表現が難しいので、理解ができない/使用語彙が難しい/ことばの意味が、似たような漢字で、わかりづらい/ことばの説明と理解が必要/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/意味がわからない/わからなかった/(母国語での試験なら）言葉のイメージができた/ベトナム語だと設問を理解することができた
		68%	72		2.「**逆唱**課題」 4.「**騒がしい場所**」「**作業効率**」 5.「**エピソード記憶**」	非漢字圏の留学生は、漢字の意味で内容を理解する習慣が身についていない/選択肢 4.「騒がしい」は「人がたくさんいる場所」と考えてしまった/理解できなかった/意味がわからない/言葉が難しい/問題と選択肢の意味がわからなかった/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/(母国語での試験なら）不明であった言葉がわかった
		42%	73	・　**心不全**	1.「**速やかに**」「**息切れ**」 3.「**チアノーゼ**が生じる」 4.「（呼吸苦は、～）軽減する」 5.「（下肢に）**限局**（した浮腫）」	理解できなかった/意味がわからない/チアノーゼ等カタカナの言葉わからない（特に医学用語）/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足/**(母国語での試験なら）チアノーゼの言葉がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	63%	74	・　脳卒中 ・　微熱 ・　水疱 ・　最も適切な	1.「圧迫」「血流」 2.「**まれ**である」	選択肢 2.「(仙骨部に）こうした」が指示している言葉がどこかわからない/選択肢 3.「無関係」という言葉を初めて見た/選択肢 4.「できるだけ避ける」と選択肢 5.「できるだけ控える」→この 2 つの違いがわからない/文章が長い/長い文章になると、全体がわからなくなる/事例がまずわからなかったので選択肢を選べなかった/問題文読み取り/使用語彙が難しい/問題の理解が難しい/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/集中できなかった
		57%	75	・　栄養状態 ・　維持	1.「**歯科健康診査**」 2.「（薬剤を）併用する」 5.「たんぱく質を）**制限**する」	設問の語彙がわからず、間違える/日本語がわからない/言葉の意味がわからない/質問がわからなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/全部正解のような文章であった/(母国語での試験なら）栄養状態の言葉がわかった/ 英語だと設問の意味がわかった
		44%	76	・　転倒 ・　自宅療養	1.「**処方箋**（を）**交付**する」 5.「**提案**する」	英語圏の外国人は病名が理解できるが、ベトナム人はわからない/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足
	認知症の理解	48%	77	・　**推計値**		日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足
		41%	78		5.「**昼夜逆転**が**生じる**」	使用語彙が難しい/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/BPSD は英語圏なら共通理解している
		47%	79	・　せん妄	1.「薬剤」 3.「(意識レベルは）**清明**」 5.「幻覚」	**日本語の語彙、文法の理解不足**/専門用語が難しい
		28%	80	・　**初期症状**	1.～5.「～が認められる」	全選択肢.「（～という症状が）認められる」という表現がわからない/(翻訳された）ベトナム語の言葉がわからないが、想像で理解している/専門用語が難しく理解が難しい/使用語彙が難しい/**日本語の語彙、文法の理解不足**
		58%	81	・　**発症**リスク ・　**低減**	1.「**抗**認知症薬」	選択肢 5.**「飽和脂肪酸を多く含む食事」がわからない/使用語彙が難しいし、わからない**/問題がわからないので、質問を間違う/**日本語の語彙、文法の理解不足**/(翻訳された試験では）意味が理解できたためポジティブな表現の選択肢を選んだ（→何番を選択したのかは不明）
		53%	82	・　**抗**認知症薬		選択肢 5.「複数の抗認知症薬」の「複数」が、2 つでも複数になると思わなかった/**日本語の語彙、文法の理解不足**
		64%	83		1.**「周回」GPS 追跡機」** 2.「（甘い食べ物への）**こだわり**」 3.「周囲」「（生活習慣を）確立する」 4.「**脱抑制**」	選択肢 3.「（生活習慣を）確立する」の意味わからない/日本語の語彙、文法の理解不足/日本語がわからない/読解力不足

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
こころとからだのしくみ	認知症の理解	59%	84		1.「**処分**」 2.「手助け」 4.「薬物治療」「主治医」	設問文.「最初に行う（助言の内容）」という設問が捉えられなかった/事例自体がわからなかった/文書の理解不足/問題が長いので、時間がかかった/使用語彙が難しい/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**
		54%	85		5.「**保佐人**」	選択肢 5.「保佐人」を「保証人」と思った/日本語の語彙、文法、**読解の理解不足**/しっかりと読まなかった/文章の意味わからなかった/選択肢が理解できなかった/言葉の意味が理解できなかった/言葉がわからない/問題解決力わからない/(母国語での試験でも）文章の意味わからなかった
		44%	86	・　介護予防教室 ・　**怒りっぽい**	3.「**老人クラブ**」 5.「**かかりつけ医**」	設問文.「怒りっぽい」→「いつもずーっと怒っている」と勘違い/1.~5.「(～すると)いいでしょう」という声かけが良くない声かけのように感じた/**事例問題は苦手**/読むことにとらわれ，想像しながら読解することが困難/読解力不足/**意味が理解できなかった**/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/文章を読み解くことはできたが、適切なものを選択することができなかった/集中できなかった
	障害の理解	64%	87	・　**能力障害**	4.「職場復帰**困難**」 5.「**経済的不利益**」	選択肢の言葉が理解できなかった/使用語彙（漢字）が難しい/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/集中できなかった
		42%	88		2.4.「合理的配慮」 3.「共生社会」 5.「協議会」	選択肢の言葉が理解できなかった/文章の意味が理解できない/言い回しがわからない/言葉がわからない/「共生社会」は英語でも意味がわからない/言葉が難しい/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語での）文章を読んで、正確ではないが、正解できた
		26%	89	・　**痙直型** ・　**不随意運動型** ・　**アテトーゼ型**		問題文わかりにくい/問題文から答えを選択することが難しい/日本語の語彙、文法の理解不足/(母国語での）文章を読んで、正確ではないが、正解できた
		43%	90	・　**内因性精神障害** ・　分類される疾患	3.「パニック障害」 5.「統合失調症」	「内」や「外」の言葉の意味が難しい/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解/フィリピンでは高校で学習した分野だった
		41%	91	・　**地域移行** ・　**社会資源**	1.「**ケアハウス**」 2.「**共同生活援助（グループホーム）**」 3.「**自立支援医療**」 4.「**精神科病院**」 5.「**同行援護**」	設問文「社会資源」へのイメージがつかめなかった/**全選択肢それぞれの言葉の意味が、いまいちわからなかった**/選択肢 1．「ケアハウス」選択肢 2．「グループホーム」がわからなかった/選択肢 5「同行援護」の意味を理解していない/問題の意味がわからない/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/問題をしっかりと読まなかった/(母国語での）文章を読んで、正確ではないが、正解できた
		51%	92	・　**自閉症スペクトラム障害** ・　特性	4.「行為障害」	質問の内容を誤った捉え方をした/専門用語が難しい/**日本語の語彙、文法の理解不足**/(母国語なら）障害の特性を読み解けた

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
こころとからだのしくみ	障害の理解	27%	93	・ **筋委縮性側索硬化症**	1.「**免疫疾患**」 2.「**振戦**」「筋固縮」 3.「（聴力は）保たれる」	選択肢の言葉が理解できなかった/専門用語が難しいし、わからない/使用語彙が難しい/答えの内容が理解できなかった/**日本語の語彙、文法の理解不足/慌てて、しっかり読んでなかった/**(母国語での）文章を読んで、正確ではないが、正解できた
		48%	94	・ **糖尿病性網膜症** ・ （失明は）**避けられない**	4.「**否認**ができずに**混乱**する」	**設問文.「周囲に怒りをぶつけたり、壁に頭を打ちつけたり」がイメージできなかった/**設問が長くてわかりにくかった/文章が長い/**文章の中に難しい言葉があると、前の文章がわからなくなる事例の状況が理解できず、答えの内容も理解できなかった**/言葉の意味が理解できなかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足/**(母国語なら）選択肢が理解できた
		42%	95	・ 歩行時の方向転換（が不安定）		設問文「日常生活には介助を必要としない」という文章を読み解けなかった**/日本語の語彙、文法の理解不足/**(母国語の試験なら）症状を理解できて、ステージを選択することができた
		60%	96	・ **制度化**された地域の**社会資源**	1.「家族会」 2.「近隣の住民」 3.「同居家族」 4.「**コンビニエンスストアによる見守り**」	設問文「制度化」より「法」などを含む言葉のほうが理解しやすい/わからない言葉があった/言い回しがわからない/日本語がわからない/読解力不足/日本語の文章の意味がわからなくなった/日本語の語彙、文法の理解不足
	こころとからだのしくみ	67%	97	・ 相当する	1.「脅かされない」 2.「**賞賛**」 3.「遺伝子」 4.「**好意**（がある他者）」「**良好**な（関係）」	日本語表現を理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足
		31%	98	・ **機能局在の部位**	1.「頭頂葉」 2.「前頭葉」 3.「側頭葉」 4.「後頭葉」 5.「大脳辺縁系」	使用語彙が難しい/**日本語の語彙、文法の理解不足/**（母国語での試験なら）選択肢の言葉の意味が理解できた
		45%	99	・ 爪、指 ・ 推測される	3.「**さじ状爪**」「**鉄欠乏性貧血**」 4.「**ばち状指**」 5.「爪**白癬**」	問題と選択肢の意味がわからなかった/日本語がわからない/難しい/読解力不足/**日本語の語彙**/文法の理解不足/集中できなかった
		41%	100	・ **口臭**	5.「（他者との）交流」	選択肢 3.5.「～なることがある」という表現はわかりにくい/選択肢 5.「避ける」の漢字の意味を勘違いしていた/ 日本語の表現が難しく、文章を理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/**内容を誤解した/日本語の語彙、文法の理解不足**

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	30%	101		1.「**転落**」 2.「無症状」 4.「**保存的治療**」 5.「**予後**」	設問文.「最も適切な」の意味の意味がわからない/ベトナム語だと、「転倒」も「転落」も同じ言葉/設問文の意図が理解できていない/**日本語の語彙、文法の理解不足**
		38%	102		2.「（嚥下性）無呼吸」 4.「（食塊を）形成する」 5.「**随意的**」	設問文は短いので、意味が理解できた/内容が理解できていない/選択肢の言葉が理解できなかった/**日本語の語彙、文法の理解不足**
		52%	103	・　歩き回った後	1.「反射性尿失禁」 2.「**心因性頻尿**」 3.「溢流性尿失禁」 4.「機能性尿失禁」 5.「腹圧性尿失禁」	設問文.「歩き回った後」わかりにくい/**全選択肢の漢字が難しく、わからなかった**/設問が長いので、理解するのに時間がかかった/専門門用語が難しかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足/**（母国語での試験なら）選択肢の言葉が理解できた
		44%	104	・　**正常**な尿	2.「ブドウ糖が排出」 3.「排尿直後」「アンモニア臭」 4.「排尿直後」「アルカリ性」 5.「排尿直後」「淡黄色」「透明」	選択肢 3.～5.**「排尿直後」の意味がわからない。特に、「直後」がいつなのかわからない**/選択肢 5.「淡黄色」の「淡」を「炎」と理解した/選択肢の言葉が理解できなかった/言葉の意味が理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/排尿に関する知識は勉強したが、質問の主旨が理解できなかった/**日本語の語彙、文法の理解不足**/「淡黄色」はわからなかったが、(母国語での試験なら)「YELLOW」の表記で正答が出せた
		40%	105	・　**弛緩性便秘**	1.「食物繊維」 5.「（がんによる）通過障害」	設問文.「最も適切な」を見落としている/選択肢の語彙が難しく理解できなかった/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足
		62%	106	・　**抗**ヒスタミン薬	1.「（就寝後）**覚醒する**」 3.「痛がゆくなる」	**設問文「抗ヒスタミン薬」の「抗」の意味がわからない**/使用語彙が難しい/**日本語の語彙、文法の理解不足**
		40%	107	・　終末期 ・　**あらかじめ書面に示しておく**	1.「**ターミナルケア**」 2.「**インフォームドコンセント**」 3.「**リビングウィル**」 4.「**デスカンファレンス**」 5.「**グリーフケア**」	**設問文.「あらかじめ書面に示しておく」がわかりにくい**/設問に「終末期」と書いてあるのに選択肢に「ターミナルケア」とあったので設問の主旨が読み取れず誤った/英語圏以外の留学生は言葉がわからない/英語はわかるが、意味がわからない/英語の表記でも、その意味がわからない/日本語がわからない/読解力不足/問題の意味がわからなかった/カタカナが苦手/**日本語の語彙、文法の理解不足/**(母国語での試験なら）問題の意味がわかった
		54%	108	・　死亡**直前**	1.「（筋肉の）**強直**」 2.「（角膜の）混濁」 3.「（皮膚の）死斑」 5.「（筋肉の）**硬直**」	選択肢４.「下顎」がわかっても、「下顎呼吸」になるとわからない/選択肢 1~5.「強直」「混濁」「死斑」「硬直」何が何だかわからなくなる/使用語彙が難しい/選択肢の語彙が難しく理解できなかった/選択肢の意味がわからなかった/**日本語の語彙、文法の理解不足/**（母国語での試験なら）選択肢の意味がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
医療的ケア	医療的ケア	68%	109		5.「気管分岐部」	設問文が短いので設問の意味はわかる/日本語がわからない/読解力不足/日本語の語彙、文法の理解不足/集中力が低下して、問題文をしっかり読んでなかった
		67%	110		1.「除外された」 4.「講師」 5.「インスリン注射」	設問文.「実施が可能」=「介助ができる」と認識した/問題が長いので、理解が難しい/日本語の理解不足/読解力不足/よく読まなかった
		71%	111	・　痰がからむ ・　鼻腔内 ・　（痰は）取り切れた（ようだ）	1.「（吸引チューブを）**とどめる**」 5.「鼻腔内」	事例・選択肢の文がわからなかった/問題が長いので、理解が難しい/意味が理解できない/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/よく読まなかった/（母国語での試験なら）言葉がわかった
		47%	112		1.「短時間」 2.「浸漬法」 5.「**廃棄**」	設問は理解できる/選択肢の言葉がわからなかった/選択肢の言葉が難しく、答えることができなかった/内容を誤解した/わからない言葉があった/しっかりと読まなかった/日本語の語彙、文法の理解不足/（母国語での試験なら）言葉がわかった
		63%	113	・　（冷蔵庫に）保管	2.「**びらん**」	選択肢 2.「（胃ろうの周囲の）びらん」は「痛い」という意味だと思った/問題文読み取り/**問題の内容や意味がわからなかった**/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解力の不足/（母国語での試験なら）言葉がわかった
総合問題	総合問題	30%	114		1.「**ラクナ梗塞**」 2.「**くも膜下出血**」 3.「**慢性硬膜下血腫**」 4.「**正常圧水頭症**」 5.「**高次脳機能障害**」	**事例がわからなかったので、選択肢を選べなかった/問いの意味がわからなかった**/選択肢の言葉がわからない/専門用語が難しい/漢字の理解不足/**長い文章は理解が難しい**/読解力の問題（総合問題全部）/**日本語の語彙、文法の理解不足/ゆっくり読めばわかる問題もあるが、読む時間がない/**(母国語の試験でも）ラクナ梗塞はわからない
		39%	115	・　**賞味期限**	1.「黙って処分する」 5.「保存容器」	**事例がわからなかったので、選択肢を選べなかった**/設問の意味が理解できない/問題を正しく解釈できなかった/**選択肢の言葉がわからなかった**/日本語の表現が難しい/長文と関連させず判断した/**使用語彙が難しい**/日本語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/時間不足/（母国語での試験を読んだが）**「賞味期限が 2 日前に切れた」の意味がわからなかった**/ベトナム語の翻訳が「消費期限」の言葉になっていた
		40%	116	・　更新申請 ・　作成する者として		設問文.「作成する者として」という表現がわからない/**事例がわからなかったので選択肢を選べなかった/日本語の文章が読み取れない**/しっかりと読まなかった/専門用語がわからない/日本語の語彙、文法、読解の理解不足/時間不足/（母国語での試験なら）言葉がわかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
総合問題	総合問題	48%	117	・　家族構成	2.「インシデント報告書」 3.「**エコマップ**」 4.「**プロセスレコード**」 5.「**フェイスシート**」	間違えて覚えていた/選択肢の言葉がわからなかった/事例を理解することが難しくて、読み解けなかった/出題の意図を読み取れない/カタカナ表記で意味がわからない/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足/フェイスシートの意味がわからない。英語で FACE　SHEET は顔を拭くシートのイメージ
		57%	118	・　歯磨き粉	3.「**振戦**」 4.「**脱抑制**」 5.「**常同行動**」	問題文がわからなかった/長文がわからない/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足
		21%	119	・　独自（の事業） ・　社会福祉法人（が行うこととした）事業	1.「**公益事業**」	選択肢 4.「自立相談支援事業」の「自立」は理解できるが、漢字の多さに惑わされる/**問題・選択肢の意味がわからなかった**/専門用語が難しい/長文がわからない/長文を読むことが、大変である/**長い文章は理解が難しい**/長文を読むことにつかれる/文章が長いと、内容がわからなくなる/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足/（母国語での試験でも）選択肢の意味がわからなかった
		44%	120	・　入院形態	1.「**任意入院**」 2.「医療保護」 3.「応急」 4.「**措置**」	事例文の 1 つの文の中に、複数の情報（サービス利用の頻度など）があり、イメージしにくかった/長文を読むことが大変である/文章問題は苦手/長い文章は理解が難しい/長文がわからない/専門用語が難しいし、わからない/ 語彙の理解不足/漢字が多いとなかなか記憶できない/問題文がわからなかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足/しっかりと読まなかった
		55%	121	・　デイケア ・　おびえながら ・　**電波を飛ばして監視しています**		**設問文.「電波を飛ばしながら監視している」がわからない**/設問文「最初の言葉かけ」、わかりません/言葉の意味が理解できない/言葉かけの言い回しが理解できなかった/長文がわからない/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足/読み落とし
		48%	122	・　失敗談	2.「（治療に）専念」 3.「無理せず」 4.「長所」	設問文.「失敗談」ではなく、『あるメンバーが「以前、就労に挑戦したが、うまくいかなかった(失敗した)」という話を聴いて』なら理解できる/**事例がわからなかったので、選択肢を選べなかった**/長文がわからない/長い文章は理解が難しい/専門用語が難しいし、わからない/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足
		52%	123		3.「**平衡感覚**の低下」	長文がわからない/長文で読む気がなくなった/長文理解できない/事例を理解することが難しかった/読み解けなかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足/(母国語での試験なら）言葉が理解できた
		45%	124		1.「介護給付費」 2.「補装具費」 3.「自立支援医療費」 4.「訓練等給付費」 5.「相談支援給付費」	設問・選択肢の意味がわからなかった/選択肢 1.4.5「〇〇給付費」わからない/長文問題は，何を問われているかが理解できない/文章の読解力が乏しい/専門用語がわからない/問題文の下にある（注）の意味がわからなかった/法律の正式名称が書いてあることを知らずに、不思議に思っていた/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/時間不足/しっかりと読まなかった

領域	科目	正答率	No.	不明語彙　一覧（太字表記：複数回答だったもの）		誤答理由　抜粋（太字表記：複数回答だったもの）
				設問文（事例文含む）	選択肢 1～5	
総合問題	総合問題	41%	125	・　**当面留意**	1.「**前あき**（の衣類）」「**かぶり**（の衣類）」 5.「屈曲位」	長文を読むことにつかれる/文章が長いと、内容がわからなくなる/**事例がわからなかったので、選択肢を選べなかった**/総合問題は文章量が多いので、理解しようとしても、いろいろな考えが浮かび、混乱してしまう/日本語表現が難しく、理解できなかった/**日本語の語彙、文法、読解の理解不足**/**時間不足**/しっかり読まなかった/読み抜けがあった/(母国語での試験なら）言葉が理解できた

巻末参照編. 留学生に関する各種参考情報（2023 年 1 月 現在）

留学生指導において、留学生自らが相談できる窓口や、学習の際に参考となる HP 等の情報を以下紹介します。

<窓口・問い合わせ先>

◇ 介護福祉士を目指す留学生のための相談窓口（日本介護福祉士養成施設協会）

―お困りごとがあれば、**無料で**、電話・メールにてなんでも相談できます
お電話でのご相談：0120-07-8505
メールでのご相談：kaigo-ryugaku-support@kaiyokyo.net
対応言語：日本語

◇ 外国人介護人材**無料相**談サポート（国際厚生事業団）

―お困りごとがあれば、**無料で**、電話にてなんでも相談できます
https://jicwels.or.jp/fcw/?page_id=85
お電話でのご相談：0120-118-370
WEB からのご相談：上の HP から入ってください
対応言語：日本語・英語・タガログ語・インドネシア語・ベトナム語・中国語・タイ語・ネパール語・ミャンマー語・クメール語・モンゴル語
※言語によっては対応していない曜日があります

<奨学金についての情報サイト>

◇ 介護福祉士・社会福祉士を目指す方々へ
（修学資金貸付制度のご案内）（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/newpage_15126.html

<介護や日本語の勉強のために参考になるインターネットサイト>

◇ にほんごをまなぼう（日本介護福祉士会）

―**無料で**、N3 レベルの日本語の勉強ができます。
また、介護の勉強のための複数の言語で
書かれた各種資料も、**無料で**ダウンロードできます。
使用するには、ユーザー登録が必要です。
https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/

<介護福祉士国家試験について>

◇ 介護福祉士国家試験の概要

―制度や過去問題について、以下から確認できます。
https://www.sssc.or.jp/kaigo/

令和 4 年度 老人保健健康増進等事業
外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業

－検討委員会　委員名簿－（敬称略、委員長を除き五十音順）

	お名前	ご所属・役職
委員長	井之上　芳雄	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会　副会長
委員	池澤　明日香	神戸医療福祉専門学校中央校　教員
委員	石川　由美	帝京平成大学健康医療スポーツ学部・医療スポーツ学科　准教授
委員	任　セア	東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科　助教
委員	岡本　匡弘	京都保育福祉専門学院　副学院長
委員	小山　晶子	医療介護福祉政策研究フォーラム　アドバイザー
委員	黒田　英敏	旭川福祉専門学校　副校長
委員	橋本　由紀江	一般社団法人国際交流＆日本語支援Ｙ　代表理事

オブザーバー　　：厚生労働省　社会・援護局　福祉基盤課　福祉人材確保対策室

事務局　　：公益社団法人　日本介護福祉士養成施設協会

厚生労働省　老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」

介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン

令和３年３月発行（令和５年３月改訂）

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

〒113-0033　東京都文京区本郷 3-3-10　藤和シティコープ御茶ノ水 2 階

TEL：03-3830-0471　FAX：03-3830-0472